

平成 23 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 聖ヨハネ会

社会福祉法人聖ヨハネ会

基本理念

カトリックの精神に基づき、永遠の生命を有する人間性を尊重し、「病める人、苦しむ人、弱い立場の人」に奉仕します。

基本方針

1. 援助を必要とする人々をかけがえのない存在として関わり、人間の尊厳にふさわしい医療または福祉を追求しながら、共にいのちの質を高め合う全人格的な援助を行います。
2. 社会福祉の事業として、良質なサービスを提供し、公正に運営します。
3. 法令及び規程に則り、事業を運営します。
4. 地域社会に立脚した事業として、地域の福祉または医療に貢献します。

職員の心得

1. 私たちは法人の理念を理解し、その具体的な実現に努めます。
2. 私たちは自己の使命を認識し、その職能の専門性を十分に発揮するように努力し、各々が役割に応じた自己啓発に努めます。
3. 私たちは社会福祉事業である各施設を相互に理解のもとに、連携、協力を努めます。

活動の理念

病に苦しむ人、ハンディを負った人、自立の困難な人の隣人となって、援助の手を差しのべ、その必要に応じて最善を尽くします。

平成 23 年度事業報告

目 次

一	平成 23 年度事業報告	1
	法人本部事業報告	2
二	事業経営	6
	1 障害福祉部門	6
	2 高齢福祉部門	22
	3 医療部門	40
	4 公益事業部門	47
三	理事会並びに評議員会	49
四	経営会議	52

一 平成23年度事業報告

【はじめに】

平成23年度が始まる直前の平成23年3月11日に東日本大震災が発生した。ここにあらためて多くの犠牲になった方々へ哀悼の意を表す。

発生から1年が経過したが、今もなお多くの方が被災し、原発に始まる様々な問題が発生する等、地域単位で人間が生活していくことについて多くのことを考えさせられる一年であった。地域のために何ができるか、何をしていく必要があるのかを法人単独ではなく、行政とも連携しながら検討を進める中、災害時に在宅の要援護者を受け入れるための場所として、本町高齢者在宅サービスセンターが二次避難所（福祉避難所）に指定された。運用など詳細は今後詰めていくこととなるが、食糧等の備蓄場所の確保など、市内の比較的広範囲にわたる検討事項が今後出てくることが予想される。

そのような中で、社会福祉法人においても制度化されたサービスの提供だけでは特別法人としての存在意義がないとされ、当法人の存在意義を明確にし、社会福祉事業を経営する信頼性の高い法人であることを示していくために、法人の中期行動計画（平成23年度～25年度）を策定し、平成23年度はその初年度であった。今まで培ってきた実績を振り返り、今及び将来にどのような役割やサービスの提供が期待されるかを考え、中期的な事業展開を検討した年度であった。部門ごとに取り巻く外部環境や人員等の内部環境が異なるため、進み方にスピード感の違いはあるか、一定の方向性は確認ができたと認識している。より具体的な形を作り上げていくことが次年度以降の課題となっていく。

■法人本部

【事業報告】

1. 事業計画書に則り昨年度から引き続いて、当法人の本部機能がどうあるべきかという命題を掲げながら、その礎を築いていくために、各施設との関わりを持つことを目的として施設の運営会議や管理会議等へ参加をした。特に部門ごとに中期的な事業の方向性を検討する場を設けて、ブレインストーミング形式で協議した。
2. その中で障害福祉部門においては、平成23年11月30日の理事会でも指示を受けたが、築40年を経過した富士聖ヨハネ学園の改築や、山梨県にありながら東京都の事業を展開してきた経緯を鑑み、この先の障害福祉部門の方向性を出すための協議を重ねてきた。

富士聖ヨハネ学園、障害者地域生活支援センター、法人本部、企画室に加え、横山理事及び濱本理事にもご参加いただき、当法人における障害福祉部門の在り方（法改正等を受けて、どんなことをする部門としていくのか。）、学園改築に伴う入所施設定員数と地域移行の考え方、山梨県民向け事業の在り方、公募案件等新規事業の考え方等を協議した。

主な協議内容は以下のとおりである。

【会議出席者】

（役員）渡邊理事長、濱本理事、横山理事
（富士聖ヨハネ学園）角張園長、勝見副園長、田中企画室長
（障害者地域生活支援センター）三浦事務長
（法人本部）竹川事務局長、小松企画室長

【協議内容】

（第一回 平成24年1月26日）

- 理事会へ提案した富士聖ヨハネ学園の改築とそれに伴う障害者地域生活支援センターの役割について、その方向性を検討することを本会議の目的とするものの確認。

- 改築後の入所施設の定員と地域移行による移動利用者の考え方の整理。

- 受け入れ側の支援センターにおける課題の整理。

（第二回 平成24年2月3日）

- 障害者地域生活支援センターの5年後の姿（案）を検討。

- 利用者の移行に伴う、職員配置（異動）の検討。

- 利用者家族及び職員への説明について。

（第三回 平成24年2月29日）

- 富士聖ヨハネ学園の保護者役員説明会及び職員説明会の報告。

- 障害者地域生活支援センターの職員説明会の報告。

- 職員の異動に関する検討事項の整理。（就業規則、給与規程、諸手当等）

- 江東区の公有地に関する入所施設開設のオファー検討。

（第四回 平成24年3月5日）

- 職員の異動に関する検討事項の整理。（就業規則、給与規程、諸手当等）

- 移動する利用者の選定に関する検討。
 - 江東区の公有地に関する入所施設開設のオファー検討。
(第五回 平成 24 年 3 月 27 日)
 - 実務者による利用者の選定に関する具体的な検討結果の中間報告。
 - 今後の実務者会議の進め方の確認。
3. 法人の業務を示す定款細則の見直し、法人の運営活動の根幹となる規程類の改廃、法人全体の組織図、法人沿革の整備を行った。特に法人を取り巻く環境が変化し、個々の施設ごとの運営を中心とした「施設経営」から、施設間の連携による高付加価値を生む「法人単位の経営」への転換が言われる一方で、雇用等に関する法改正（高年齢者雇用安定法の改正による 65 歳までの雇用延長、育児・介護休業法の改正、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定等）への対応など法人全体の課題も出てきている。当法人は職員数 895 名（短時間労働者含む）、施設数 19 施設、事業内容は医療、介護、福祉、公益と多岐にわたり、それぞれにおいて就業規則、給与規程、退職金制度等々が策定されている。その結果同じ法人であるのに、他施設へ異動する場合には、一旦現職場を退職して再入職する必要があるというようなケースも出てきている。
- 経営会議において、これらのことを解決していくためには、運営の大元となる「就業規則」に統一性を持たせることが必要であり（＝就業規則準則の策定）、労務基準・人事・給与等の統一化を法人単位で図ることが重要であるとの判断がなされた。そこで専門チームを構成して検討することとなった。
4. 社会福祉法人の新会計基準が定められ、平成 26 年決算までが移行期限となった。
新会計基準の基本的な考え方は
- 法人が行う全ての事業（社会福祉事業、公益事業、収益事業）を適用対象とする。
 - 法人全体の財務状況を明らかにし、経営分析を可能にするとともに、外部への情報公開に資するものとする
- となっており、法人全体での統一した取り組みが必要となる。
- また、現在各々の施設ごとに構築されている会計の仕組みに統一性を持たせる機会でもあると考えられる。
- 専門的な見地からサポートしていただくことが望ましいと考え、法人の評議員でもある保坂税理士にその役をお願いすることとした。新会計基準の講習も行っていただくことを考えている。
- 《進め方について》
- 平成 26 年度予算を新基準で作成することを目標としてスケジュールした。
 - 具体的には
 - 平成 23 年度を環境面準備期間（拠点区分の決定、財務諸表作成時の集約拠点の決定、会計処理に関する法人内のルール統一化等）
 - 平成 24 年度をソフト面準備期間（職員への研修、制度背景の習得、勘定科目と表示区分の習得、日常業務における変更点の整理等）

▶ 平成 25 年度をハード面準備期間（会計ソフトの導入等）

と考え、進めることとした。

尚、会計ソフトに関しては平成 24 年度から選定に入っていくようなスケジュールになる。

- 今年度の目標である拠点区分及びサービス区分について、経営会議で検討し決定をした。
- 会計ソフトの選定については、今後ベンダー会社から様々な提案があることが予想されるので、慎重に選定していきたい。特に病院については、「病院会計準則」での諸表作成も必須となるので、ソフト選定には留意していく必要がある。

5. 昨年度から検討を進めてきた法人のホームページについて、各施設と連携をし、統一したホームページ作製が完了した。
6. 小金井訪問看護ステーション及び障害者地域生活支援センター関連の、会計業務及び事務業務をサポートした。
7. 東日本大震災による影響で、運営に大きな支障をきたした院内保育所の建て替え等が決定され、エリザベト寮の改築について検討を進めた。
8. その他活動については、後述の経営会議の活動実績を参照されたい。
9. 庶務・登記・監査事項等

1) 定款変更認可申請

なし。

2) 登記

登記年月日	登記内容
平成 23 年 5 月 31 日	資産総額（4,051,399,862 円）

3) 指導監査等

実施年月日	内容	監査人等
平成 23 年 5 月 11 日	決算監事監査	村松監事、駒村監事、米川監事
平成 23 年 6 月 29 日	実地検査 (桜町聖ヨハネホーム)	東京都福祉保健局 指導監査部指導第一課 施設サービス検査係
平成 23 年 12 月 1 日	平成 23 年度社会福祉法人 等指導監査（書面） (富士聖ヨハネ学園)	山梨県福祉保健部 監査指導室

4) 調査等

提出年月	提出内容	提出先
平成 23 年 6 月	社会福祉法人調査票	東京都福祉保健局指導監査部指導調整課指導調整係
平成 23 年 6 月	事業報告書	独立行政法人 福祉医療機構
平成 23 年 6 月	障害者雇用状況報告書	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
平成 23 年 7 月	省エネ法改正に伴う特定事業者の中長期計画書、定期報告書	関東経済産業局 関東信越厚生局
平成 23 年 7 月	社会福祉法人が取り組むべき要援護者支援のあり方に関する調査	東京都社会福祉協議会 社会福祉法人協議会
平成 23 年 9 月	環境にやさしい企業行動調査	環境省 総合環境政策局 環境経済課

二 事業経営

1. 障害福祉部門

【 総 括 】

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災から始まり、障害者基本法の改定、10 月には障害者虐待防止法の成立、自立支援法を廃止して新たな法律が出来る迄の繋ぎ法案の成立、3 月には推進会議の骨格提言を受けて厚生労働省は新たな総合支援法案を国会に提出するなど、障害者に関する新しい制度へと動き始めた年である。21 年度から始まった障害者福祉サービスの質の向上を図る観点から、福祉・人材の処遇改善の事業も今年度で終了し、来年度からは同様の形になっていくのかが疑問である。

利用者の負担軽減の一貫として、繋ぎ法ではグループホーム利用者の負担であった、家賃補助が 10 月から始まる。

東京都では、平成 25 年度の新しいサービス推進費に向けて段階的補助金の削減が始まる。さらなる経営の効率化を進める努力を行わなければならない。

I 富士聖ヨハネ学園
(生活介護・施設入所支援・短期入所)

【平成 23 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H23度)	利用率(H22度)	利用率(H21度)
生活介護	180名	165.5名	91.9%	93.4%	95.5%
施設入所支援	150名	138.1名	92.1%	93.9%	94.6%
短期入所	8名	5.0名	62.5%	40.0%	21.2%
相談支援事業	—				

平均年齢 45.7歳(最高 80歳、最低 20歳)

男女比率 52 : 48

平均在所期間 22.7年(最長 39.7年)

年間入所 1名

年間退所 4名

【職 員】

	平成 23 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						平成 24 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
園長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
副園長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
生活支援員	66	54	120	11	3	14	14	25	17	74	54	128
事務員	6	3	9	1	0	0	1	1	1	7	2	9
栄養士・調理員	5	13	18	1	2	4	4	5	6	4	13	17
設備等	1	3	4	0	0	0	0	0	0	1	3	4
医師	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
看護師	3	2	5	0	0	0	0	0	0	3	2	5
医療事務員	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	83	77	160	13	5	18	19	31	24	91	76	167

【施設運営状況】

昨年3月11日の東日本大震災に於いて、日本知的障害者支援協会の調べでは東北3県において利用者14名、職員5名の尊い命が犠牲となった。当学園では、物資・人の両面の支援をしてきた。また、国からの要請である被災地の入所施設利用者さんの受け入れ要請を受け、40名の利用者の受け入れ準備をしていたが、被災地から避難してくる事はなかった。

運営面では、昨年度からの課題であった生活棟の改修工事も完成して、利用者さんには快適な生活を送っていただく事が出来るようになった。入浴設備については、風呂場の広さ等も在り検討課題としていく。40年以上経過した建物は老朽化が激しくなっており理事会の承認を得て全面改築の検討を始める。

全面改築の検討に入り、現在の設備面に於いても大きな問題であった給湯の二ヶ所の漏水を改善してきた。また、省エネ化として無理のない電気量の削減に力を入れた。給湯の改善により水の量削減、燃料費の削減、電気使用量の削減と省エネを進めている。

利用者さんの高齢化に伴い、多くの方が食事について検討を要する事になり、作業療法士に参加して頂き委員会を作り、個人に合った食形態の作成に取り組んでいる。

利用者さんの支援について、介護福祉士の資格を習得した職員が多くなってきたのを機会に、介護福祉士会を開催し学園全体の「介護力アップ」の実技講習を開催している。

また、社会福祉士を中心に権利擁護に基づく支援の徹底を図り、職員の意識改革を進める。

国連の障害者権利条約の批准に向け、国内法の整備や制度の改革を推し進めている。学園に於いても、制度に合った支援の方法を全職員で考えて行かなければならない。

障害者支援施設

生活介護定員 180名 現員 165名 (3月末)

施設入所定員 150名 現員 137名 (3月末)

【利用者支援状況】

1、施設入所支援

①組織の改編を行なった

施設入所利用者に対する全人的支援、統一された支援を目的に、これまで他の部署に所属されていた、給食課及び日中活動課を施設支援部の中に組み込みんだ。

また、これまで男女で分かれていた課編成を、高齢男子（いこい寮）高齢女子（なごみ寮）を3課、若年で自閉的傾向にある男女（つばさ寮・めぐみ寮）を4課とし、障害特性に応じた支援が出来るようにした。

②食形態カンファレンスの導入

誤嚥の可能性の高い利用者の、食に関するカンファレンスをOTの指導をいただきながら関係部署職員が集まって行なうようにした。その結果、個々に適した食形態の変更や、食事介助法の改善等を図ることが出来、誤嚥性肺炎罹患の危険性の減少を図った。

③外出機会の増加

一昨年「サービス改善向上委員会」にて外出機会の調査を行なった結果、あまりにも外出機会が少ないことがわかった。そのため23年度は「外出機会を増やそう」という取り組みを行ない、短時間外出（買い物・喫茶）・ドライブ等を積極的に行なった。

④いこい寮・つばさ寮のリフレッシュ工事施工

山梨県の指導監査による指摘事項にあった両寮の居住環境の改善を目的に、リフレッシュ工事を行なった。

⑤利用者の寮間の異動実施

新規入所者の受け入れや、高齢化された方の安全確保を目的に、利用者の寮間の異動を行なった。

2、生活介護（日中活動）

①介護係の創設

利用者の重度高齢化への対応を目的に日中活動課に介護係を創設し、OT・PTの指導のもと専門的知識・技術の伝達を行なった。

②昼礼の開催

利用者・職員全員が集まって行なう昼礼を週1回開催した。体操や季節の歌、お祈り等を楽しく行なうことが出来、利用者も心待ちにしている様子がうかがえた。

③園内整備の推進

日中活動で遊歩道づくり、花壇づくり、野菜づくり等を行ない、園内整備と利用者の体力の維持・増進を図った。

3、短期入所支援

常時希望者が多く調整が難しい状況にある。その上、自立支援協議会より緊急を要する方の短期入所依頼にも応えなければならず、課題解決にむけての検討・取り組みが必要となっている。

【施設整備状況】

昨年度、(理事会を含め) 学園の中長期計画『5年後の姿の具体的化に向けて』策定について検討をはじめた。そのなかで学園が忍野に移転して40年余りが経過し老朽化による不具合、重度・高齢化による設備の問題、法制度との不一致(居室現3.3㎡→9.9㎡)、生活環境悪化の改善(湿気によるカビ)などの問題があげられた。

そのなかで ボイラー工事については将来、建て替えを含め検討とし先送りとした。工事は先送りとしたが老朽化による漏水については調査を行い数カ所の大きな漏水を発見、補修を行った。また電気についてもデマンド監視装置の導入により電気の使用量、基本料金を抑えるなど学園全体で水道、重油、電気の使用量の節約に取り組んできた。その他予定されていた工事等については

○マリアアンナホーム横に2階建てプレハブ建設

(会議室及び日中活動事務所、園内ショップとして活用)

○3棟リフォーム

(県監査指摘事項のカビ問題の改修、及び高齢者対策として)

○厨房 冷凍庫 改修工事

○中庭ステージ新設

○園内 遊具の設置 等を行った。

○車については検討した結果 購入ではなくリースで4台導入を行った。

注； ボイラー工事他、将来建て替えを含め緊急性のないも、建て替えにからむものについては工事、購入を取りやめ、あるいは検討、見送りすることとした。

【教育研修】

研 修 名	月 日	場 所	出 席 者
人として尊厳を大切にする支援	9/16	学園リハビリ棟	全職員
高齢虚弱を知る	3/16	同上	同上
法人理念の理解と日々の支援	11/17-18	聖霊修道院	各課より計 13 名
いま、虐待を考える	3/16	県立文学館	各課より計 12 名
知的障害者福祉協会全国大会	9/7-9	栃木県文化センター	榊原・渡辺奈央
食形態を考える	10/5	嵐山郷	各課より計 15 名
サービス管理責任者研修	延 5 日間	甲府市内	池田(真)・亀沢・上嶋
東社協新任職員研修		都内	新任職員 5 名
山梨県虐待防止・権利擁護研修	延べ 3 日間	県立文学館	米川・平賀・曾根(弘)
東社協介護研修	9/17	飯田橋セントラル	関・加々美・広瀬

その他学園全体において計 98 回の研修 延べ 572 人参加

Ⅱ 富士聖ヨハネ学園-グループホーム（共同生活介護・共同生活援助）

【平成 23 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率 (H23 度)	利用率 (H22 度)	利用率 (H21 度)
河口湖聖ヨハネケアビレッジ	10 名	9.7 名	96.7%	100%	100%
明見聖ヨハネケアビレッジ	6 名	6.0 名	100%	100%	100%
下吉田聖ヨハネケアビレッジ	7 名	6.5 名	92.9%	86%	100%
忍野聖ヨハネケアビレッジ	7 名	6.7 名	96.4%	100%	100%

平均年齢 46.6 歳（最高 65 歳、最低 21 歳）

男女比率 16（男性）：14（女性）

平均在所期間 5.6 年（最長 19.25 年）

年間入所 4 名

年間退所 3 名

【職 員】

	平成 23 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						平成 24 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	4	11	15	1	1	3	1	4	2	4	13	17
合計	4	11	15	1	1	3	1	4	2	4	13	17

【施設運営状況】

年度当初、1名減員であった「下吉田 CV」と、年度途中での利用者の逝去に伴う1名減となった「忍野 CV」は、CV間の利用者間の異動を伴った新規2名受け入れ（1名地域より、1名学園本体より）により、定員の充足が図られた。

利用者の高齢化と、借家の老朽化により、各ホーム建物の修繕が繰り返し行われており、賃借契約の見直しを含めて、今後のホームのあり方の検討を行なう必要性を感じている。

課長の下に係長2名を配属し、各々が2ホームを所轄することにより、きめ細かな職員管理・利用者支援を行えるようにした。

合同のクリスマス会の実施・個別外出の充実を図った。

【利用者支援状況】

●河口湖聖ヨハネケアービレッジ

利用者の高齢化により、支援に占める健康管理の割合が高くなっている。

●下吉田聖ヨハネケアービレッジ

忍野 CV を利用している方が就労に伴い下吉田 CV に異動。現在下吉田 CV より、昭和大学の食堂に通勤している。

●明見聖ヨハネケアービレッジ

利用者相互が助け合い、補い合いながら生活を送っている。

●忍野聖ヨハネケアービレッジ

忍野 CV に籍のある I さんは、CV での支援困難を理由に学園の旧職員宿舎に居住して2年がたった。精神的に落ち着きが出てきて、1年間医療事務資格取得のための通信講座を受講した。結果は不合格であったが、本人が自ら課題に取り組んだことを評価したい。

【施設整備状況】

●河口湖聖ヨハネケアービレッジ サッシ工事

●明見 聖ヨハネケアービレッジ 浴室工事

●下吉田聖ヨハネケアービレッジ 浴室タイル工事

●忍野 聖ヨハネケアービレッジ サッシ工事

各ケアービレッジにパソコンを導入

【教育研修】

研修名	月日	場所	出席者
人として尊厳を大切にす支援	9/16	学園リハビリ棟	全職員
高齢虚弱を知る	3/16	同上	同上
法人理念の理解と日々の支援	11/17-18	聖霊修道院	各課より計13名
いま、虐待を考える	3/16	県立文学館	各課より計12名
全国 GH・CH 研修	7/19-20	愛知県	堀内えいこ
GH・CH 研修	7/30	武蔵野スイングホール	長田明子
知的障害者 GH 世話人研修会	10/17	都内	堀内美香

Ⅲ 富士聖ヨハネ学園一就労支援事業（生活介護/就労継続支援 B 型）

【平成 23 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H23度)	利用率(H22度)	利用率(H21度)
就労継続 B 型	10 名	8.9 名	89%	80%	30%
生活介護	10 名	8.0 名	80%	80%	90%

・下吉田聖ヨハネワークセンター

平均年齢 42.2 歳(最高 66 歳 最低 20 歳)

男女比率 男子 10 名 女子 7 名 59 : 41

平均在所期間 2.2 年(最長 2.8 年)

年間入所 2 名

年間退所 1 名

【職 員】

	平成 23 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						平成 24 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	4	4	8	0	1	8	1	8	2	3	11	14
看護師(兼務)		1	1								1	1
合計	4	5	9	0	1	8	1	8	2	3	12	15

【施設運営状況】

4 月当初、生活介護利用者 8 名・就労継続支援 B 型利用者 8 名であった。年度途中に、就労継続支援 B 型利用者は、1 名が就労により、もう 1 名は施設入所のために退所したが、新規利用者が 2 名おり、現員数は変わらなかった。

仕事内容は、食器洗浄チームの仕事に学園各寮の食堂清掃の仕事も組み込んだ。

下吉田ワークセンターでは、従来通り自動車部品の受注作業・手焼きせんべいの製造を行なっている。せんべいについては、注文に生産が追いつかない状況となっている。

職員配置は、食堂清掃の業務が追加されたため、増員となっている。

【利用者支援状況】

支援学校を23年春に卒業し利用を始めた方が、突発的に不適切な行動を起すことが多々あり、1年間支援に困窮した。また、22年度から食器洗浄に通っていた利用者は、反社会的行動もあり、甲府市内の施設に入所することになってしまった。

しかしながら忍野 CV から食器洗浄に通っていた利用者が就労し、退所したことは職員の喜びでもあったが、他の利用者にとっても目標となり、励みとなっている。

【施設整備状況】

ワークセンターにエアコン2台導入

【教育研修】

研修名	月日	場所	出席者
人として尊厳を大切にする支援	9/16	学園リハビリ棟	全職員
高齢虚弱を知る	3/16	同上	同上
法人理念の理解と日々の支援	11/17-18	聖霊修道院	各課より計13名
いま、虐待を考える	3/16	県立文学館	各課より計12名
障害者地域生活従事者研修会	7/12-15	戸山カンライズ	平賀久二仁
相談支援従事者初任者研修	延3日	甲府市内	池田(真)・亀沢・上嶋

IV 障害者地域生活支援センター

(共同生活介護・共同生活援助・就労移行支援・就労継続支援)

【平成23年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H23度)	利用率(H22度)	利用率(H21度)	備考
小金井聖ヨハネ第1 ケアビレッジ	7名	7名	100%	100%	100%	
小金井聖ヨハネ第2 ケアビレッジ	7名	7名	100%	100%	100%	
清瀬聖ヨハネ第1ケ アビレッジ	7名	7名	100%	100%	100%	
清瀬聖ヨハネ第2 ケアビレッジ	7名	7名	100%	100%	100%	
桜町聖ヨハネケ アビレッジ	7名	6名	85.7%	85.7%	85.7%	
小金井聖ヨハネワークセ ンター 就労移行	12名	15名	84.7%	75.0%		2012/1/1 定員変更 20人→12人
小金井聖ヨハネワークセ ンター 就労継続 B型	10名	4名	40.0%			2012/01/01 開所定員 10人

【利用者の状況】

	小金井CV-1	小金井CV-2	清瀬CV-1	清瀬CV-2	桜CV-1	WC 移行	WC 継続	計
実人数	7人	7人	7人	7人	6人	15人	4人	53人
平均年齢	43.1歳	45.3歳	44歳	47.3歳	54.2歳	25.3歳	37歳	40.5歳
平均在学期間	8年	8年	6年	6年	3年	1.9年	0.33年	
男性人数(人)	7人		7人		2人	9人	3人	28人
女性人数(人)		7人		7人	4人	3人	4人	25人
男性平均年齢	43.1歳		44歳		25歳	21.9歳	34.7歳	36.3歳
女性平均年齢		45.3歳		47.3歳	55歳	35.3歳	38.8歳	45.2歳

【職員】

	平成23年4月1日 職員数		年間異動				平成24年3月31日 職員数	
	正職員	非常勤職員・パート	正職員		非常勤職員・パート		正職員	非常勤職員・パート
			就任	退任	就任	退任		
生活支援・就労支援員等	8	49	0	0	7	9	8	47
事務統括室	2	0	1	1	2	1	2	1
合計 (人)	59		増減	0	増減	-1	58	

【特記事項】

・障害者地域生活支援センター開設後、通年運営、体制基礎固めとなった一年

平成22年11月1日 障害者地域生活支援センターを設立し、平成23年4月1日に旧都北多摩看護学院実習生室に事務室を開設した。

センター長、事務統括室長、事務会計職員(一部本部職員兼務含む)5名体制で東京地区事業所の運営管理機能を果たすべく新年度業務を開始した。

また、事務統括室に本部企画室が同室設置され、連携協働して都内施設整備運営事業への応募、新規事業の開拓・、行政ヒアリング、説明会参加、情報収集、などに精力的に取り組んだ。

・小金井聖ヨハネワークセンターの事業変更及び就労継続支援 B型 (定員 10名) の開所

新規事業として、日中生活介護 (定員 30名)、就労継続支援 B型 (定員 20名) について、平成24年度開設を目標に取り組んだ。その後用地の問題等により、当初計画を変更し、平成24年1月に就労継続支援 B型 (定員 10名) を開設した。これにより利用期間終了となる利用者が、就労支援サービスを継続して利用することができた。小金井聖ヨハネワークセンターは、就労移行事業から 就労移行支援(定員 12名)と就労継続支援(定員 10名)の多機能型施設へ変更し、変更届、開所届など必要な手続きを行った。

・新規事業開設に向けた取り組み 日中生活介護・共同生活介護・共同生活援助・就労支援

障害者地域生活支援センター設立後のスタート年度として職員が一体チームとして多方面で精力的に活動したが、進捗状況により柔軟な対応が必要とされた一年であった。今後も中期事業計画に沿って新規事業開設、事業変更、などを進めることになる。

・災害防災対策の見直し

東日本大震災に経験を踏まえ、利用者・職員の安全確保、施設設備の安全管理など職員の関心が高まり、防災対策の見直し点検を行った。今後、災害防災計画、防災訓練等の見直しが課題であり、優先順、身の丈に合った大規模災害防災計画等の策定を早急に進めていきたい。

聖ヨハネ会の合同防災訓練は、平成23年度から障害者地域生活支援センターが加わり、5施設合同での第15回総合防災訓練となった。

今回は、緊急時の対応訓練(レベル1)であったが、来年度は、各施設で復旧計画を策定したところでの(レベル2)の復旧・事業継続対策訓練が出来れば理想的である。障害者支援センターとしては、桜町キャンパス外の清瀬ケアビレッジ、小金井ケアビレッジ、ワークセンターとの連絡、状況把握、支援派遣などをどうするか、課題としたところである。小金井市、清瀬市との協議も必要と考え、障害者福祉避難所構想も検討に入りたい。

【施設運営状況】

・収支の状況 経営指標 人件費比率

障害者地域生活支援センター全体の 2011 年度の資金収支決算 経常収入合計は、212,200 千円、経常支出合計 204,350 千円、経常活動資金収支差額 7,849 千円の黒字計上であった。事業活動収支決算は、就労会計 就労支援事業活動収入計 13,974 千円、事業会計 事業活動収入計 163,072 千円、事業活動支出計 160,226 千円、経常収支差額 2,509 千円であった。

センター全体の人件費比率は、57.8% であった。人件費支出は、122,745 千円(俸給、諸手当、非常勤給与、共済掛金、法定福利費の合計)であり、これに対して収入面は 212,200 千円(自立支援費等収入、補助金収入、その他収入の合計)である。各事業所別比較では、67.2%~52.9% の 15 ポイントの高低差があり、重要な経営指標として定点分析を続けていく。処遇改善交付金 384 万円の影響は、約 1% に相当する。

今後の新規事業開始、事業拡充変更は、人材の確保が不可欠であり、若年者新卒者採用によって人件費比率が高くなるため、引き続き人件費を含め、目標管理を徹底し予算統制を図っていく。事業運営は、サービスの質の確保と稼働率の維持、加算適用、を運営の主軸として進める。

・障害者地域生活支援センターの資金運用

障害者地域生活支援センターの運営資金は、各事業所から分担金を繰り入れる方法をとった。初期投資費用は、運用が順調になり回収処理を行った。事務統括室、各事業所間の資金操作は、事業稼働状況を把握しながら進めたが、課題が残った初年度となった。

・小金井市障害者日中活動系サービス推進事業収支

小金井聖ヨハネワークセンターは、収入不足を事業所からの資金補填することとしたが、平成 23 年度小金井市障害者日中活動系サービス推進事業補助金が前年対比 474 万円の増収となり大幅な収支の改善となり、安定した財政収支に近づいた。増額理由は、利用者数増加、小金井市補助金の施設借上費(小金井市単独補助 家賃分)、障害者等雇用加算、第三者評価受審経費 が計上できたためである。

ワークセンターは、利用者の一般就労へ定着成果を確実に上げており、報酬のアップ評価となった。年度末の 3 月には就労移行支援体制加算の申請し安定した収入増をめざす。今後も稼働率のアップ、利用受け入れ、委託作業の開拓、加算適用などに積極的に取り組んでいきたい。

【利用者支援状況】

(小金井・清瀬・桜町 聖ヨハネケアビレッジ・ 小金井聖ヨハネワークセンター)

・感染症対策 小金井ケアビレッジの通所施設利用者 2 名がインフルエンザに感染・発症したが、個室対応、館内消毒、手洗い徹底など感染症対応を徹底した。その結果、感染は拡大することなく同じフロア内での発症で収束できた。

・利用者の健康管理・健康診断 利用者の定期健康診断の実施、インフルエンザ予防接種の実施

- ・ **利用者の凍結転倒事故** ワークセンター通所利用者が、桜町病院構内において凍結転倒により受傷、幸い軽症で外来受診にて対応できた。損害賠償責任保険の適用外であり、通勤事故に対する保険加入を検討する必要あり。

- ・ **ケアービレッジ
(小金井・清瀬・桜町)** 施設間連携、利用者就労支援アフターケア
在宅復帰の支援 試行期間設定、通所支援連携、アフターケア、相談支援を行いつつ家庭復帰へ向けた支援
高齢利用者支援 高齢入所者の介護保険サービス活用、特養ホーム等への転換・調整
通院、療養支援 利用者の高齢化、介護ケアの工夫、腰痛予防・介護研修

- ・ **ワークセンター第三者評価受審** 昨年の利用者聞き取り調査に引き続き、平成23年度も第三者評価を受審した。開所4年目になるが地域におけるワークセンターの名前と実績が定着してきており、利用者さんも名指しで選んで来てくれる人が多くなった。就労支援における一般就労定着の実績も確実に成果をあげており、第三者評価の結果としても現れたところである。

- ・ **家族会、家族懇談会** 家族会リーダー等との定期的な懇談協議会の開催

- ・ **ケアの多様化・業務の工夫** 利用者の身体状況や家庭状況の変化と共に支援サービスも創意工夫、柔軟に専門連携したチームケアとなる。

【施設整備状況】

平成23年度は、懸案事項を含め施設備品の購入、修理工事等下記の通りであり、整備関係費用総額は約10,920万円であった。

うち助成金が35%相当額であり、誠に有り難くご支援ご配慮に感謝を申し上げますと共に、これらの施設整備によって何よりも利用者さんの喜ぶ姿を目の当たりにしており、サービス向上として実感できる整備結果となっていることを報告したい。更にサービスの向上と業務遂行に努めていきたい。

・ 清瀬型ヨハネケアービレッジ

浴室改修工事・介護労働者設備等導入奨励金の補助申請事業について

6月にリフト付き介護浴槽に取り換えと浴室、脱衣室の改修を決定し、同時に当該奨励金(労働局助成)事業を申請し、10月に工事完了した。

利用者のADL低下・障害により湯船に入れない状況であったが、これにより、「利用者、職員共にスムーズに入浴できるようになり利用者さんの入浴時の不安や職員の介護負担が減

り、何よりも、浴槽に入れなかった利用者さんが入れるようになったことが良かった（導入効果アンケート回答）」という利用者・職員ともにサービス向上として実感できる整備結果となった。

当該奨励金は、介護福祉機器を導入し、労働環境の改善、介護負担軽減等の一定の効果を上げることにより助成が受けられる制度であり、9月に東京労働局の導入・運用事業計画(10月～1月)認定を受け、改修工事、介護研修、介護体制の見直し、導入効果の調査、評価報告書提出まで、8ヶ月間にわたる一連の計画事業を実施し、身体的負担の改善率77.8%、作業方法の改善率100%の成果を上げ、奨励金約174万円の支給を受けたものである。これは、小金井、清瀬の全職員の約8ヶ月間にわたる取り組みが結実した成果である。そして、職員には、介護の身体的負担の軽減、作業方法の改善、安全な労働衛生管理システムづくりとしても改善効果が見られたことは前進であり今後の取り組みの示唆となっている。

・清瀬聖ヨハネケアビレッジ 車いす対応型軽ワゴン車の購入

車いす対応利用者の送迎のために清瀬ケアビレッジにて新規に購入した。なお、震災の影響で納車が遅れ7月からの運行となった。

・霞会館寄付によるパソコン、プロジェクター機器等の整備

小金井聖ヨハネケアビレッジなど5部署にノート型、デスク型パソコンを設置した。これにより事務機器の性能及び互換性アップ、ソフトウェアOSの統一化ができたので、各施設間の事務処理、請求事務処理の効率化を進め、事務的業務を軽減していきたい。

・東京都共同募金会配分金による洗濯乾燥機等の整備

① 洗濯乾燥機の整備

節電節水型の洗濯乾燥機の整備効果は、すぐに現れて、洗濯機を導入した7月の電気使用量前年度対比-14%達成した。

利用者さんも梅雨や冬場においても衣類乾燥が確実となり、快適で清潔な衣服を衣服を着ることができることから梅雨時などのじめじめした雰囲気もなくなり、和やかな楽しい笑顔での生活が過ごせるようになりました。

② 非常用階段避難車

地震等の災害・停電時においてエレベーターの使用が不可能になった場合に、車いす利用者さんを職員一人で迅速に2階から1階へ避難可能となった。

③ ガスオーブン

製菓・製パン調理実習等が事業所内で出来るようになった。調理体験の幅が広がり、より美味しいものを作るという楽しみ、食の大切さを実感している。

・出光文化福祉財団 助成事業 「移動式エアコン」整備

就労移行訓練施設である桜町高齢者センターの地下洗浄室に「移動式エアコン」を設置し、洗浄機による高温多湿の汗だくの作業環境が改善した。

・ケアビレッジの居室改修、個室クロス張替

清瀬ケアビレッジの男性棟、女性棟の転居（1階と2階の総入れ替え）にあたり、一部の居室クロスを張り替えた。

小金井ケアビレッジでは、利用者の要望を踏まえ、個室の引き戸をドア式に改修施工し、利用者のトラブル、騒音リスク対策を施した。

・清瀬ケアビレッジのスプリンクラー漏水補修

東日本大震災によりスプリンクラーの漏水被害、元栓を止める緊急処置を施し、業者点検・補修となる。

根本的には、天井部分の支柱や配管を耐震性のあるものに取り換えることが必要であるが、費用も掛かることから、今回は漏水対応に留めた。

【官公署、関係団体等への届出等】

東京都 障害者自立支援法 指定申請・変更届等				
東京都	変更届	2010/4/1	小金井聖ヨハネワークセンター	管理者変更
東京都	指定申請	2011/11/9	小金井聖ヨハネワークセンター	就労継続支援事業 B型 指定申請書
東京都	開始届	2011/11/9	小金井聖ヨハネワークセンター	就労継続支援事業 B型 開始届
東京都	変更届	2011/11/23	小金井聖ヨハネワークセンター	就労移行支援事業 定員変更 20人→12人
東京都	変更(加算)届	2011/3/15	小金井聖ヨハネワークセンター	就労移行支援体制加算
東京都	変更(加算)届	2012/4/9	桜町ケアビレッジ	通勤者生活支援加算
厚生労働省 労働局助成金等申請				
東京労働局	事業認定申請	2011/8/24	介護労働者設備等導入奨励金 導入・運用計画書(事業認定申請)	
東京労働局	支給申請・効果	2012/2/27	介護労働者設備等導入奨励金支給申請、介護機器導入効果報告書	
東京労働局	助成申請	2011/11/25	特定求職者雇用開発助成金	第一期
民間社会福祉施設サービス推進費補助金事業				
東京都	H23年度	2011/5/31	東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金事業実績報告	
小金井市	H23年度	2011/6/8	小金井市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付申請	
小金井市	H23年度	2011/6/20	小金井市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付請求	
小金井市	H23年度	2011/10/20	小金井市障害者日中活動系サービス推進事業計画変更申請	
小金井市委託事業				
小金井市	平成24年度	2011/10/26	平成24年度公園清掃等委託料見積書 提出 予算要求	
民間団体助成金				
日本財団	運行報告	2011/5/13	平成22年度年間運行報告書	(ワークセンター スズキ・エブリ)
東京都共同募金会	H23年度	2011/8/26	東京都共同募金会 平成23年度 地域配分(B配分)申請	
東京都共同募金会	H23年度	2012/3/21	東京都共同募金会 平成23年度使用分 使途報告書 60万	
出光文化福祉財団	助成申請	2011/8/26	出光文化福祉財団助成金申請書	
出光文化福祉財団	事業完了報告	2012/2/28	出光文化福祉財団助成事業完了報告	
事業開拓				
新宿区		2011/11/10	新宿区 知的障害者等入所支援施設整備運営事業 公募申込書	
新宿区		2011/12/5	新宿区 知的障害者等入所支援施設整備運営事業 事業計画書	
消防署・警察署 その他関係団体				
小金井消防署		2011/10/14	消防設備定期点検報告書	
清瀬消防署		2011/5/10	消防設備定期点検報告書	
小金井商工会		2011/12/27	小金井聖ヨハネワークセンター 商工会加入申込書 商品委託販売契約	
法人内事業連携支援				
桜町病院		2011/11/9	医療協力に関する協定書	桜町病院
桜町病院		2012/3/29	平成24年度 桜町病院職員食堂業務委託契約書 食器洗浄業務委託契約書	

【職員教育・研修】

2011 (H23) 年度	研修会名	日時	主催・会場	参加者氏名
4月	平成23年度新規入職者研修	2011/4/1		
	平成23年度福祉職員職務階層別研修「新任職員研修」	2011/5/17.18	東社協 東京都福祉人材研修センター	今関 静野
	平成23年度東京都知的障害グループホーム運営協議会総会学習会	2011/5/31	都議会議事堂都民ホール	三浦 和行
6月	平成23年度 算定基礎届事務説明会	2011/6/9	アミュ立川 大ホール	木村 香織
	平成23年度東社協知的発達障害部会新任者研修	2011/6/10.11	いこいの村 あしがら	大津 弘太
	平成23年度 東社協 福祉職員職務階層別研修	6/14.15	東京都福祉人材センター研修室 茗荷谷	石崎 治夫
7月	平成23年度 東社協知的発達障害部会新任者研修	6/10.11	東社協知的発達障害部会	下田 直行
	ワンコイン研修	2012/7/30	株式会社 クリップ	小松 淳 大津弘太
	第23回全国グループホーム・ケアホーム等研修会	2011/7/19-20	名古屋市 ウィンク愛知	伊藤 真貴子
	平成23年度 東社協研修 「自閉症への正しい理解と日常生活での支援方法について」	2011/7/22	飯田橋センプラ	井上 信彦
	社会福祉法人・施設会計実務研修	7/4-6. 7/19-20	東社協	伊藤 明子
8月	工賃アップセミナー	2011/8/30	都福祉保健局 都研修センター(茗荷谷)	水元 優
9月	ホームページ管理者更新担当者 CMS操作講習会	2011/9/21	本部 別館	小松 淳 三浦和行
10月	年末調整実践塾	2011/10/26	PCA株式会社 飯田橋	木村 香織
	平成23年度介護労働者設備導入運用計画事業 第1回介護技術研修会	2011/10/4	障害者地域生活支援センター	宮寺孝 保含む 18名
	平成23年度知的発達障害部会総会	2012/10/19	研究社英語センター	伊藤 英治
	平成23年度第二回入所施設分科会学習会	2011/10/19	東社協 知的発達障害部会 研究社英語センター	伊藤 英治
11月	就業支援基礎研修	11/16.17.18	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	渡部まゆみ
	新たな社会福祉法人会計基準に関する研修会	2011/11/21	東社協	三浦 和行
	生活寮・グループホーム等ネットワーク委員会 宿泊研修	2011/11/18-19	東社協 知的発達障害部会 山梨県韮山市 穴山の里	小松 淳
	平成23年度新任研修フォローアップ研修	2012/11/24	東社協 飯田橋 研究社英語センター	大津弘太 下田直行
12月	平成23年度 第二回サービス管理者研修	2011/12/13-14	都障害者施策推進本部計画課 支援係	三浦 和行
1月	平成23年度介護労働者設備導入運用計画事業 第2回介護技術研修会	2011/1/30	清瀬ケアビレッジ	宮寺孝 を含む 10名
2月	NPO JC-NET ジョブ・コーチ養成研修	2012/2/8-13	特定非営利法人 ジョブコーチ・ネットワーク	渡部まゆみ
	平成23年度新任研修フォローアップ研修 II	2012/2/22-	東社協 飯田橋 研究社英語センター	大津弘太 下田直行
3月	東京都障害者虐待防止権利擁護研修会	2012/3/19	東京都研修センター茗荷谷	伊藤 英治

【2011年度 事業別 利用状況 一覧表】

合計額	小金井 第1ヶ アービレッジ	小金井 第2ヶ アービレッジ	清瀬 第1ヶ アービレッジ	清瀬 第2ヶ アービレッジ	桜町ケアアービ レッジ	小金井ワーク センター移行	小金井ワーク センター継続	合計
2011年4月	7	7	7	7	6	14		48
2011年5月	7	7	7	7	6	12		46
2011年6月	7	7	7	7	6	17		51
2011年7月	7	7	7	7	5	15		48
2011年8月	7	7	7	7	5	14		47
2011年9月	7	7	7	7	5	15		48
2011年10月	7	7	7	7	5	15		48
2011年11月	7	7	7	7	10	15		53
2011年12月	7	7	7	7	6	15		49
2012年1月	7	7	7	7	5	14	3	50
2012年2月	7	7	7	7	7	15	4	54
2012年3月	7	7	7	7	6	15	4	53
合計	84	84	84	84	72	169	11	588

2. 高齢福祉部門

【 総 括 】

ヨハネ会高齢福祉部門において平成 23 年度は、前年度に引き続き、大きく厳しい転換の年度となった。

まず、第一の大きな転換は、経営層の交代及び人事異動であった。

10/1 付で、石山裕明が桜町聖ヨハネホーム園長専任となり桜町高齢者在宅サービスセンター長の兼務を解かれた。代わりに藤井律治（前本町センター長）が異動し桜町高齢者在宅サービスセンター長に就任。同時に、新しく本町高齢者在宅サービスセンター長には、山極愛郎（前本町センター主任）が昇格し就任した。

これは、約 1 年に渡る桜町高齢者在宅サービスセンターの実質トップ不在の課題解決に向けた人事で約半年の準備を行い実施された。この異動により下半期から両センターでは、それぞれ専任の新センター長のもと本格的な組織強化やサービス充実に向けて更なる改革を行う予定であった。しかしホーム不適切ケア（10/18）の対応と改善策のために両センター長は、下半期の多くの時間をホームに費やすこととなった。この為、両センター長を補佐し、また桜町センター運営強化の目的で、12/1 付で樋口昭彦（前センター事務主任）を在宅部門の事務長に昇格させ新しく経営層に加えた。

第二の大きな転換は、ヨハネホームの厳しいサービス運営状況の把握と改善へ向けた取り組みである。10 月のホーム不適切ケアをきっかけに、事故等再発防止委員会が高齢福祉部門内に立ち上がり、ホームの現状の課題把握と改善を進めていった。課題把握の為の職員グループ討議は、センター職員の協力のもと、ホーム職員全体でまた多職種で進められ全員が真剣に問題を共有していくことになった。現在、ホームは新しい体制のもと思考錯誤しながらも全体で前向きに進んでいく姿があり改革を一步一步進めている最中である。

第三の大きな転換は、ヨハネ会の理念に立ち返る動きである。

介護保険下で 12 年が経過し、高齢福祉部門の各サービスは、度重なる制度改正への対応に追われ次第にそれが中心となり、本来土台であるべきヨハネ会の理念がいつの間にか後回しとなっていた点があった。それは、人への接し方（ご利用者に対しても職員間でも）、仕事のしかた、職員像のあり方へも影響していくもので下半期より顧問による理念教育を職員会議で取り上げ、次年度事業計画でも大きな柱・視点としている。

ヨハネホームでは、平成 23 年度末に石山園長退任と常勤生活相談員 2 名の退職が決まり、その異動に伴う影響や混乱をできるだけ最小限に抑えるために、生活相談部及び介護部の体制見直しを 1 月から年度末にかけて準備していくこととなった。石山園長退任については、園長職務代行を藤井桜町センター長が行うこととなり、ヨハネ会高齢福祉部門は、次年度の平成 24 年度も引き続き厳しい運営状況が続くものと考えられる。

I 桜町聖ヨハネホーム

(指定介護老人福祉施設・短期入所生活介護)

【平成 23 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H23度)	利用率(H22度)	利用率(H21度)
介護老人福祉施設	106名	92.8	87.6%	94.8%	94.7%
短期入所生活介護	8名	8.0	100.5%	94.3%	87.0%

平均年齢 87.9歳（最高104歳、最低67歳）

男女比率 13：77

平均在所期間 6年5月（最長26年）

年間入所 13名（4月～11月に4名・12月以降に9名）

年間退所 23名（4月～11月に14名・12月以降に9名：ご逝去・長期入院など）

【職 員】

	平成 23 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 24 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
介護支援専門員	1(3)		1(3)		1					(3)		(3)
看護師	5	3	8	0	0	1	1	1	1	5	3	8
介護員	28	21	49	8	6	1	7	9	13	30	15	45
生活指導員	2		2	1				1		3		3
調理員	4	6	10	1	1			1	1	4	6	10

※上記表には、在籍者数としているが、3月31日付での退職者は、常勤で園長1名・相談員2名・介護員1名・調理員1名の合計5名。非常勤で介護員1名・看護師1名の2名。

（平成24年4月1日付で、園長退職については、センター長が異動し就任。相談員は、介護部主任1名が異動と非常勤相談員1名がセンターより異動増。介護部では、新卒の常勤介護員3名と非常勤介護員1名を採用し対応した。）

【施設運営状況】

1. 入所利用率低下による財務状況の悪化と方針転換について

ご利用者の更なる重度化（2003年度以降）・認知症利用者の増加などにより、また生活スペースの狭さから、介護事故（転倒・転落など）やヒヤリハットの事例が増えたことに対応として、事業計画では、入所人員を4月時点の100.6名から目標92名に低下させて住環境のスペース改善やリスクマネジメントを進める方針がとられた。実際に上半期は、ご逝去などによる退所12名に対して入所が2名で10名減の入所状況となった。

しかし、過去3年間財務状況が悪化しているにも関わらず、大幅な利用率の低下は更なる財務状況の悪化が予測され、また10名減においても、事故・ヒヤリハットはさほど激減せず、並行して人件費削減化が進み介護員の入退職は年間で24名（5名減）となり現場は年間を通し厳しい体制状況となった。その様な中で、10/18に不適切ケアが発生した。入所は、12月から1月にかけて終末期でご逝去される5名あり、1/4に84名と過去最低の入所人員となった。

副園長（園長職務代行）より1月の運営会議・主任会議・職員会議において当初方針の変更を伝えて、①早期の入所人員100名以上回復 ②介護部体制の強化 ③理念への立ちかえりを打ち出し、運営改善に努めた。入所人員回復については、12月より副園長と入所担当相談員の面談を経て、総括ケアマネジャ（常勤）を新しく入所担当の生活相談員に配置転換し対応を図った。3月末現在で入所人員は90名まで戻り新年度につなげている。

2. 不適切ケアの対応と改善について

10月18日に介護拒否で噛みつきのある利用者様に対する『不適切ケア』が発生した。小金井市により調査が行われ高齢者虐待に該当しないが、不適切なケアとされた。高齢福祉部門では、法人と連携し、高齢福祉部門内にも事故等再発防止委員会を直ちに設置し、事実の把握を行うとともに、下記に上げる再発防止のための対応策と改善を進めた。

- 理事長による訓話（3施設全職員） 開催
- 事故等再発防止委員会（法人経営者） 開催
- 事故等再発防止委員会（高齢福祉部門経営者・主任・第三者委員） 全7回 開催
- ホーム全体・多職種職員によるグループ討議実施（センター協力） 3夜連続 開催
- 表彰懲罰委員会（センター長・3施設職員代表） 開催
- 該当介護員1名への専門家による個別カウンセリング 実施済
- 該当介護員1名への内部研修（センター部門） 実施済
- 権利擁護研修・職員アンケート 実施済
- 小金井市への報告（再発防止予防） 実施済

ホームの現状の課題と問題点を率直に反省し振りかえることは厳しい作業ではあったが、現状を改善しなければならないとの共通意識が芽生え、改善に向かい前進し始めている。

3. ご利用者の生活スペースのすみわけについて

ご利用者の生活スペースのすみわけについては、認知症ケアの対応が特に必要な方、医療リスクの高い方、その他の方々に生活スペースを分けて、落ち着いた生活やリスクマネジメントを実施するために、多職種のチームでフロア改修などが検討されこの年度内に工事が実施される予定であった。しかし、①チームと建築コンサルタントの合議が余り開催されていないこと ②工事見積りが高額であったこと ③まだまだ改善や修正する部分が見られたこと等で、12月に副園長判断により総額400万以上の工事实施は、一旦中止とし一部をセコム：オートロックシステム等の導入で対応している。すみわけ自体については、チームでも長い期間をかけて検討しており、『利用者が大切にされていると思えるケア』の実現のために有効で必要な考えであることから継続し検討を重ねている。

4. 事故防止・個人情報保護・緊急時対応などのセキュリティの改善について

すみわけの検討の中で、徘徊による事故防止が取り上げられ、1階にセコムのオートロックシステムの導入を進めた。同時に、事務所監視セキュリティー（防犯及び個人情報保護）と火災報知器連動システムもセコムの一元管理（契約は今までの業者と同額）

【利用者支援状況】

1. 『利用者が大切にされていると思えるケア』の実践について

- ケアマネジメントについて1フロアで1名ずつの専任ケアマネジャが施設サービス計画に関わり、多職種と連携した利用者支援に年間を通して取り組んだ。
- 認知症ケアチームでは、認知症についての基礎知識や対応などわかりやすい学習会を多職種対象に行いセンター職員も声掛けし、幅広い支援への基礎に取り組んだ。
- 機能訓練部においては、ご利用者様ひとりひとり個別性のあるリハビリテーションの提供に取り組んだ。（音楽セラピーの集団・個別セラピーなど）
- ターミナルケアの方やその他のご利用者さまへボランティア奏者によるハーブ演奏を行った。
- 栄養部では、身体状況による嚥下困難な方、精神面からの食欲不振な方、認知症などによる低栄養の改善に取り組んだ。

2. 緊急ショートステイの受け入れについて

2011年度は、年間で29名の緊急利用で延べ利用日数は、229日であった。これは、前年度実績が21名で延べ利用日数179日であることから前年度対比で8名増、延べ日数も50日増で地域の様々な困難な緊急ニーズについて受け入れを進めたといえる。（事例…高齢者虐待防止面の受け入れ、介護者の急な入院等）

〔Ⅰ〕 入所ご利用者のADL状況について

※ADL状況について<2012年3月31日現在・単位(人)・89名>

種類 \ 区分	自立	見守り	一部介助	全介助
食 事 (構成比 %)	26 (29.2)	27 (30.3)	14 (15.7)	22 (24.7)
衣服着脱・上着 (構成比 %)	11 (12.4)	9 (10.1)	37 (41.6)	32 (36)
衣服着脱・ズボン (構成比 %)	6 (6.7)	2 (2.2)	7 (7.9)	74 (83.1)
排 泄・排 尿 (構成比 %)	3 (3.4)	6 (6.7)	20 (22.5)	60 (67.4)
排 泄・排 便 (構成比 %)	3 (3.4)	5 (5.6)	20 (22.5)	61 (68.5)
洗 身 (構成比 %)	0 (0.0)	0	18 (20.2)	71 (79.8)
起 床 (構成比 %)	1 (1.1)	0	44 (49.4)	48 (49.4)
寝 返 り (構成比 %)	2 (2.2)	0	56 (62.9)	31 (34.8)
立ち上がり (構成比 %)	0 (0.0)	0	42 (47.2)	47 (52.8)
歩 行 (構成比 %)	7 (7.9)	0	13 (14.6)	69 (77.5)

〔Ⅱ〕 入所ご利用者の要介護度の状況について

※要介護度状況について<2012年3月31日現在・単位(人)・90名>

	男 性	女 性	合 計
要介護1	0名	1名	1名
要介護2	1名	6名	7名
要介護3	2名	14名	16名
要介護4	4名	31名	35名
要介護5	6名	25名	31名
合 計	13名	77名	90名

【施設整備状況】

震災対策の一環として、東京都補助金を得て、停電時の非常自家発電装置を購入設置した。

総額 8,925,000 円（補助金 5,950,000 円 自己資金：積立金取崩 3,000,000 円）

主な固定資産取得は、下記の通り

● 非常電源自家発電装置	8,925,000 円
● スーパー低床型ベット 2 台	636,000 円
● 冷房機（地下脱衣場）	520,000 円
● 冷蔵庫	217,350 円
● ノートパソコン	111,479 円
● ミキサー 2 台	367,500 円
● セキュリティシステム装置	136,500 円
● 就業基本システム（タイムレコード）	1,603,875 円

主な修繕支出は、下記の通り

● 擁壁補修工事	356,739 円
● トイレ修繕工事	247,175 円
● 食器洗浄機設備工事	500,000 円
● 配膳車電源工事	267,750 円
● 生ごみ処理機チェーン交換	126,000 円
● 漏水修繕工事	428,817 円
● 2階ディールーム電気温水器修理	117,903 円
● 冷房チラーユニット 循環ポンプ	700,000 円
● 照明器具交換	101,850 円
● 暖冷房切替整備工事	120,000 円
● ボイラー部品交換	225,750 円
● エレベータ停電管制運転装置	472,500 円
● 換気扇交換	104,483 円
● 照明器具・非常灯交換	228,370 円
● 誘導灯交換	175,943 円
● 給湯器修理	121,094 円
● 生ごみ処理機修理	291,375 円

【教育研修】

2011 年度研修参加一覧表

2012/5/14 現在

NO	研修名	主催	場所	期間	参加者
1	転倒予防・QOL向上に向けた高齢者の睡眠障害の改善法とその具体策	株式会社日総研出版	内神田サニービル	2011/4/24	橋本
2	新任職員研修	東京都福祉人材センター	東京都社会福祉保健医療研修センター	2011/5/10-11、5/24-25、6/7-8、14-15	花嶋、佐藤、磯野、高橋
3	高齢者施設福祉部会 生活相談員研修会	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会	信愛泉苑	5/20	瀧川
4	高齢者の褥瘡・スキントラブル予防のコツと対処法	株式会社日総研出版	フォーラムミカサ	6/5	森川、橋本
5	平成23年度危険物実務講習会	東京消防庁	小金井消防署	6/8	河野
6	認知症高齢者とのコミュニケーション パリテーション	財)介護労働安定センター 東京支部	町屋ムーブホール	6/13	鳥海、小野
7	「多職種協働のための摂食支援研修会」	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会	日本教育会館	6/13	橋本、森川、増田
8	園内研修 「高齢者の脱水症と水分補給」	ホーム園内研修	ホーム内 3F集会室	6/14	ホーム介護部
9	日本カトリック老人施設協会関東支部研修会	社会福祉法人 聖母会	横浜桜木町ブリーズベイホテル	6/20~21	Sr.相松、Sr.三ヶ部、石山
10	「高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ」	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会	おくたま路	6/13~14、7/25~26	森川、橋本
11	平成23年度ファーストステップ研修	NPO法人 東京都介護福祉士会	NPO法人東京都介護福祉士会事務所	6/26からH24/1/21まで全24回	及川
12	摂食・嚥下リハビリテーション	ラックヘルスケア(株)	科学技術館	7/10	田畑
13	第9回 聖ヨハネ会リハビリテーション連絡会	聖ヨハネ会	ホーム3F	7/14	芦澤
14	施設ケアマネジャーの役割と権限とは	福)東京都社会福祉協議会	研究社英語センター	7/19	及川
15	高齢者施設福祉部会 生活相談員研修会	東京都社会福祉協議会	特養老人ホーム 安立園	7/22	瀧川
16	「機能訓練指導員のための認知症の理解に関する研修会」	福)東京都社会福祉協議会	認知症介護研究・研修東京センター	7/29	芦澤
17	「クッションの達人」事例&実習型講座	日総研出版	東京JJホール	7/31	宗像
18	ショートステイ情報交換会	東社協議会	飯田橋セントラルプラザ	8/11	牛島
19	平成23年度介護支援専門員実務研修受験対策講座	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会	あいおい損保新宿ビル	8/20	俵木
20	「平成23年度第2回介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修」	NPO法人 東京都介護福祉士会	東京しごとセンター	8/20、28、9/3、4	永野
21	平成23年度東京都高齢者権利擁護推進事業「介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修(入所系)」の開催	財)東京都福祉保健財団	アミュー立川	8/25	石山
22	平成23年度中堅職員研修	東京都福祉人材センター	東京都福祉人材センター研修室	7/26から9/7まで2日間の6回	永野、竹内、町山、木村
23	平成23年度東京都高齢者権利擁護推進事業 介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修	東京都福祉保健財団	アミュー立川	8月25日	石山
24	認知症の中核症状と周辺症状	ホーム内	3F集会室	8/25、31	栄養部、介護部補助、廣瀬
25	「見逃すな 心と体のSOS みんなでつくる健康職場」	立川労働基準監督署	アミュー立川	9月6日	谷村(石山代理)
26	全施設向けBCP策定研修会	東社協	工学院大学新宿キャンパス	9月12日	石山
27	平成23年度社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局	東京都社会福祉保健医療研修センター1F講堂	9/12	谷村(石山代理)
28	「感染予防と発症時の対応について」	園内研修	ホーム3F	9/16	ホーム、センター職員
29	第6回 東京都認知症介護実践者研修	東京都福祉人材センター	東京都社会福祉保険医療研修センター	9/29、30、10/5、6、12、26	鳥海
30	「家族支援に向けたスキルアップ研修会」講師養成研修	認知症介護研究・研修東京センター	研修東京センター 2F大会議室	9月26日	遠藤
31	介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修	NPO法人 東京都介護福祉士会	東京しごとセンター	10/12、8、16	竹内
32	レビ小体型認知症の人とのかかわりについて	園内研修	桜町センタ-3F	10/13	ホーム職員
33	「指導的職員研修」	東京都福祉人材センター	東京都福祉人材センター研修室	11/1、2	廣瀬
34	東京都認知症介護実践者研修	東京都	東京都福祉人材センター研修室	11/21、22、24、28、12/1、20	木村
35	「新たな社会福祉法人会計基準に関する研修会」	東京都社会福祉協議会	東京都福祉人材センター研修室	11月21日	廣瀬
36	感染症対策指導者養成研修	東京都福祉保健局高齢社会対策部施設支援課	東京都福祉人材センター研修室	11月29日	増田
37	「実践施設ケアマネジメント」	東京都社会福祉協議会	エステック情報ビル	11月30日	遠藤
38	小金井市介護認定調査員現任研修	小金井市福祉保健部介護福祉課長	小金井市市民会館商工会館3F	12月8日	及川
39	「高齢者の口腔ケア講習会」	東京都多摩府中保健所	東京都多摩府中保健所	12/6、16	赤沼、山口
40	「新社会福祉法人会計基準への移行に関する研修会(高齢コース)」	東京都社会福祉協議会	東京都福祉人材センター研修室	12/19、20	廣瀬
41	「高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ」フォローアップ研修会	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	11月24日	橋本、森川
42	「認知症の最新情報と対処法に関する研修会」	東京都社会福祉協議会	三鷹産業プラザ	12月14日	小林
43	「特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員によるケア連携協働のための研修会」	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	12/15、22	浅見
44	新社会福祉法人会計基準への移行に関する研修会	東京都福祉人材センター	研究社英語センター	12/19、20	廣瀬
45	「中堅職員のための中核人材養成研修」	東京都福祉人材センター	東京都福祉人材センター研修室	12/21、22	俵木
46	「中堅職員のための指導職チャレンジ研修」	東京都福祉人材センター	東京都福祉人材センター研修室	1/11、12	鳥海
47	平成23年度高齢者施設福祉部会 施設長研修	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	2012/1/18	藤井
48	「看取り介護(ターミナル)セミナー」	特定非営利活動法人 Uビジョン研究所	国立オリンピック記念青少年総合センター	2012/1/19	浜田
49	平成23年度 介護福祉士現任研修	東京都介護福祉士会	東京しごとセンター	1月29日	森川
50	「社会福祉 施設等災害防止講習会」	立川労働基準監督署	東京都立多摩社会教育会館	2012/2/6	谷村
51	「高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ」	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	2012/2/9	橋本、森川
52	介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修	東京都介護福祉士会	東京しごとセンター	2/11、12、19、3/11	小野
53	平成23年度レジオネラ対策講習会	東京都多摩府中保健所	調布市グリーンホール	2月23日	小野
54	平成24年度介護保険制度改正の概要とリスクマネジメント	東京都介護支援専門員研究協議会	中野ゼロホール	2月23日	遠藤
55	「第2回施設長研修会」	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	3月5日	藤井
56	東京都高齢者権利擁護推進事業 施設内リーダー職員研修会	東京都福祉保健財団	東京都健康プラザ ハイジア	3月8日	増田
57	「介護報酬改訂後のショートステイの機能と役割」	東京都社会福祉協議会	全理運ビル	3月19日	三ヶ部
58	平成23年度 介護福祉学科 実習連絡会	読売理工医療福祉専門学校	読売理工専門学校	3月22日	秋

Ⅱ 桜町高齢者在宅サービスセンター
 (通所介護・訪問看護・居宅介護支援・訪問入浴介護)
 小金井きた地域包括支援センター (介護予防センター)
 グリーンタウン小金井高齢者住宅 (管理)

【平成23年度利用状況報告】

種別	種別	定員	年間 延定員	延べ利用 者数	1日平均 利用者	利用率 (H23年)	利用率 (H22年)	利用率 (H21年)
介護保険事業	通所介護(一般)	30	8,880	7,911	26.73	89.1%	89.6%	90.9%
	通所介護(認知)	24	7,128	5,175	17.42	72.6%	71.6%	79.3%
	訪問介護	12	3,720	4,516	14.57	121.4%	136.5%	112.8%
	訪問入浴	8	2,464	1,820	5.90	73.9%	76.9%	89.0%
	居宅介護支援	—	2,280	1,981	165.1/月	86.9%	84.3%	92.4%
栄養事業	給食	60	17,820	15,189	51.1	85.2%	91.7%	—
	配食サービス	70	20,790	19,555	65.8	94.1%	94.2%	—
小金井市 委託事業	特定コース	15	720	302	6.29	41.9%	47.8%	46.1%
	一般コース	12	576	199	4.15	34.6%	47.4%	39.6%
	さくら体操支援	※140回 開催 打合回数 60回 会場訪問 80回						
	やすらぎ支援	※105日 実施 実利用者 29名 述利用者打合回数 10回						

利用者の動向

通所介護・認知症通所介護の要介護度の状況

① 一般型通所介護

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
人数	822	1150	2795	1214	970	705	255	7,911
割合	10.4%	14.5%	35.3%	15.3%	12.3%	8.9%	3.2%	100.0%

② 認知症対応型通所介護

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
人数	0	0	987	2015	874	574	725	5,175
割合	0.0%	0.0%	19.1%	38.9%	16.9%	11.1%	14.0%	100.0%

【職 員】

介護保険事業	平成23年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成24年4月1日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1	0	1	2	2			2	2	1	0	1
事務長	0	0	0	1				1	0	1	0	1
介護員	3	10	13	1	1	3		4	1	3	13	16
生活相談員	10	0	10	1	3			1	3	8	0	8
看護師	1	5	6			1		1	0	1	6	7
介護支援専門員	5	1	6		1			0	1	4	1	5
訪問介護員	1	11	12			2		2	0	1	13	14
運転員	0	3	3					0	0	0	3	3
栄養士	3	0	3					0	0	3	0	3
調理・調理補助	0	7	7					0	0	0	7	7
理学・作業療法士	0	2	2					0	0	0	2	2
事務員	0	3	3					0	0	0	3	3
高齢住宅管理人	0	10	10			1	1	1	1	0	10	10
清掃員他(洗浄員)	0	5	5					0	0	0	5	5
合計	24	57	81	5	7	7	1	12	8	22	63	85

【施設運営状況】

1) 管理者、管理体制の変更および体制強化に向けて

一昨年下期より、当桜町センター長が病気療養に入ったため、実質、本町センター長が兼務管理者として運営に当たってきた。

そして平成23年4月1日付けで、聖ヨハネホーム園長が、兼務として当センター長に就任、さらに各主任への管理業務委譲も明確にすると同時に、統括主任制度を導入し、本町センター長のバックアップを受けながら、統括主任を中心に各主任が自覚と責任を持ち、センター全体の運営に当たってきた。そして10月1日付けで、本町センター長が、園長に替り桜町センター長に就任、新運営体制のもと、これから更なる桜町センターの改革に着手して行こうとした矢先、ホームにおける諸問題の発生と園長の年度末での退職が決まり、聖ヨハネホームの体制再構築の必要性が顕在化してきた。

結果、桜町センター長は就任とほぼ同時にホーム運営体制の改革を中心に、多くの時間を費やさざるを得なくなった。その結果、桜町センター長ポストは、再び兼務的な体制をとらざるを得なくなり、実質不在状態が続くこととなった。

そして、桜町センター運営の安定化を企図し、12月1日付けで事務主任を事務長に昇格、一部運営決定権を委譲するものの、まだ安定した運営にあたれているとは言いきれず、安定したセンター運営は平成24年度に持ち越されたと言える。

2) 施設関係

○ 建物

- ・ 建物竣工後21年が経過したこともあり、東側壁面にひび割れも出てきていることから、耐震強度について、簡易調査を行った（㈱K構造研究所）。

結果的には、現状耐震強度という面からは問題なし、とのことであった。

○ 機械設備

- ・ 設置後、20年が経過していた洗濯乾燥機が老朽化の為、使用不能となり新規入れ替えを行う。
- ・ ボイラー・エレベーター等も老朽化が目立ち、頻繁な修理が必要となった。

3) その他

○ センター事務所内システムの再構築

- ・ センター内サーバーを、PCハードディスクからランディスクに変更。安定したアクセスを実現した。同時にラン配線を整備し直し、使用パソコンを整理する。

○ 地域包括システムの変更

- ・ 従来のスタンドアロンシステム（事務所内にサーバーを設置し、外部との接続を遮断していた）から、ASP方式に切り替えた（外部サーバー[㈱ワイズマン]を利用。小金井市も了承済み）。これにより、災害発生時の情報喪失が防げることとなった。

○ ホームページ立上げ及びメール環境の整備

- ・ 聖ヨハネ会サイトの完成と同時に、桜町高齢者在宅サービスセンターホームページも立ち上げる。また、メール環境も整い、各部署、管理者にメールアドレスが付与され、情報交換が適時に行えるようになる。

【各部業務状況】

1) 通所介護

〈 予防・一般型 〉

- ・ 3月の東日本大震災の影響、また利用者の体調の不安定さ等の理由により、利用率が上半期85.1%と低迷、これに対し、積極的な受け入れ（利用回数増も含めて）を行い、下半期93.2%まで盛り返すことができた。

〈 認知症対応型 〉

- ・ 利用者のADL・理解度の個人差が大きくなってきており、個別対応を必要とする場面が増えてきている。
また、震災の影響もあり第1四半期の利用率は67.6%と低迷、以降盛り返したものの、年度で72.6%にとどまった。今後の利用率アップに向けた体制づくりの検討が必要である。

2) 訪問介護

- ・ ヘルパーの稼働率が上がったこともあり（ヘルパーの事情により、就労時間の短縮もあり）、利用率は高水準をキープ。
しかし、内容的には、新規の身体介護（週4~5日の訪問が必要）が減り、スポット的な生活援助の利用者が増えた。

3) 訪問入浴

- ・ 効率性の観点から、入浴車の1台運行体制を進めてきた。しかし入浴ニーズが引き続き高く、また、1台での高稼働率を維持するためには、利用者数を確保しておく必要があることから、週1.5日の2台稼働をおこなってきたため、高い利用率をキープした。

4) 栄養事業

- ・ 東日本大震災後の原発事故による放射能問題、天候の影響等により、食材価格が高騰したため、食材費は昨年度比において1食当り16円の増加となる。今後、食材管理方法等についても検討の必要があると思われる。
- ・ センター2階に第二厨房（マリア・テレジア・キッチン）が完成。市の委託事業でもある「男の料理教室」を開催し、好評を得る。今後とも、「食」による高齢者の生活支援、地域のコミュニケーションの場としての活用を進めていく。
- ・ 桜町センターにおける独自事業である、「自由配食」については、独居高齢者、高齢者世帯が増加してきていることもありニーズが強く、また継続利用、利用回数の増加等から順調な実績を残し、昨年同様、利用率94%台をキープした。
- ・ 一昨年度末に、非常勤職員として採用した、障害者スタッフについては、本人の成長を促し、自発性を養うべくジョブコーチ（栄養スタッフが就任）の段階的な指導のもと、しっかりと業務に取り組んで来ている。

5) 居宅介護支援

- ・ 積極的な案件取り込み等の結果、年間を通し特定事業所加算等を計上することができ、利用者単価も大きくなったことから、平成18年4月の改正以降、大きな収入を計上する（31,728千円）。
- ・ 職員数は6名（常勤換算5名）、と多くはないが離職者もなく比較的安定した運営が行えた。

6) 地域包括支援

- ・ 虐待、DV、成年後見制度、消費者被害等に関する対応も増え、抱えている問題が複雑化、重層化してきており、適切なタイミングで支援を行う必要性が増してきている。
- ・ 昨年11月より、5名のスタッフの内1名が病気療養に入り、2月に異動となった。これにより残り4名でその分の担当を分けざる得なくなったことから、本来行うべき対応が必ずしも出来なかった、と思われる（1名の補充は、7月に入職予定）。

7) 地域支援

- ・ 東日本大震災後、利用者の安全を確保する観点から、市からの申し入れにより4月からの実施を見合わせた。その分、5月に入り実施回数等増やすものの、参加者を伸び悩んだ。
- ・ 担当者の交代もあり、利用者及び各包括に情報を浸透させることが出来ず、利用者の減少に歯止めがかけられなかった、と言える。

Ⅲ 本町高齢者在宅サービスセンター（通所介護）

【平成23年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H23度)	利用率(H22度)	利用率(H21度)
通所介護（一般型）	25名	21.9名	87.4%	82.9%	85.7%
認知症型通所介護	12名	7.9名	66.2%	71.6%	78.1%
食の自立支援事業	73名	80.3名	110.5%	117.4%	114.4%

① 平均年齢 84.6歳（最高 100歳、最低 56歳） 男女比率 男性 34%：女性 66%
 利用登録者 要介護者 68名 要支援者 17名 合計 85名（2012.3月）

新規利用者 22名 主な利用理由

（自宅生活を保つための利用・転倒や認知症予防・家族介護軽減・孤立防止・入浴希望等）

廃止利用者 27名 主な廃止理由

（逝去・施設入所・長期入院・転居・他サービス利用）

② 認知症対応型通所介護

平均年齢 83.2歳（最高 95歳、最低 69歳） 男女比率 男性 32%：女性 68%

利用登録者 要介護者 25名 要支援者 0名 合計 25名

新規利用者 11名 主な利用理由

（認知症の方の全面的支援・認知症ケア・見守り対応・家族介護軽減・その他等）

廃止利用者 9名 主な廃止理由

（逝去・施設入所・長期入院）

【職員】

	平成23年4月1日の職員数			年間退任・就任						平成24年3月31日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1名		1名	1	1			1	1	1名		1名
生活相談員	3名		3名	2	3			2	3	4名		4名
介護職員		11名	11名			1	1	1	1		11名	11名
看護職員		6名	6名			1	2	1	2		5名	5名
栄養士調理		6名	6名								6名	6名
宅配員		10名	10名			2		2			12名	12名
食の自立 Co		2名	2名				1		1		2名	2名
事務員		1名	1名								1名	1名
運転員		3名	3名			5	2	5	2		6名	6名
清掃員		4名	4名								4名	4名
合計	4名	43名	47名	3	4	9	6	12	10	5名	47名	52名

※ センター長は1名が桜町に異動。1名が10月に主任（生活相談員兼務）から昇格。

- ※ 食の自立支援事業コーディネーターは、1名がヨハネホームに異動した。この関係で桜町センター所属副主任が兼務で着任するが、カウントには含めていない。
- ※ 介護職員非常勤1名は育休につき非常勤職員数に含んでいない。同職員は自己都合により2月末退しているが退職者数に反映していない。平成23年3月31日現在の非常勤は介護職員の準職員（常勤並勤務者）5名を含む。

【施設運営状況】

今年度は第2期（5か年：平成23年度～平成27年度）小金井市指定管理者期間の初年度となった。今年度は、年度途中でセンター長交代があったほか生活相談員2名が1月24日の大雪の日の送迎途上、追突事故に遭うなどのアクシデントが発生。療養生活から希望退職という運びとなる不遇も重なり、生活相談員業務はその後年度末まで捗らず施設運営面は厳しい状況となった。

利用率は、一般型通所介護が87.4%と前年度対比で4.5%上昇した反面、認知症対応型は前年度対比で5.4ポイントマイナスの66.2%と低迷した。

他方、新体制においては法人理念のもと高齢福祉部門が一致・連帯しながら仕事をすすめてゆくことを最重視し、管理者間の円滑なコミュニケーションのもと仕事の連携を推し進めてきた。また、副主任をはじめ中堅層育成への注力はヨハネ会の次代を担う人材確保のために必要な重点課題と認識し取組みをすすめているところである。

認知症対応型通所介護の低迷について振り返ると、その直接的原因には、冬季に入所や入院がすすんだことが挙げられるが、他方で職員の収支管理意識や収支改善取組み工夫などの課題もあると認識している。

また一方では、理念・経営方針・サービス方針・重点取組項目などの組織目標の確認や周知。PDCA サイクルに則った仕事のしかた。職制の明示や周知への取組みなどはマネジメント層がより積極的に推進すべき課題でもあるだろう。

いずれにせよ、このように課題はさまざまあるが、解決への取組みはその端緒についたばかりでありこれからというところである。2012年度に向け、私たちは改めて法人の理念のもとに一致することを誓い、そこからご利用者・ご家族の支援を推しすすめてゆくことに尽力してゆくことにしたい。

《 一般型通所介護・認知症型通所介護 この1年の概要 》

- ・《震災後の取組み》東日本大震災の振り返りから、①高齢者福祉施設におけるBCP(Business Continuity Plan) 策定研修への参加 ②肩掛けベルト式介護用担架を使用した避難訓練の実施 ③サービス事業者連絡会での震災対応検討チームの発足と参加 ④災害発生時における避難所施設利用に関する協定に関する検討 ⑤被災時緊急連絡網としてメールアドレスの登録 などに取り組んだ。
- ・《台風・大雪による影響》平成23年9月21日(水)台風15号、平成24年1月24日(火)、2月29日(水)の大雪日は、サービス提供時間を短縮し、早帰りや遅いお迎えの対応でご利用者の安全送迎を第一とした。
- ・《プログラム改善》一般型デイサービスでは、以前開催していたパソコン教室がボランティアのご都合で中止となっていたが、参加していたご利用者より再開希望があった。これを受け、ITサポートセンター運営協議会の協力を得て8月2日(火)より毎週火曜日(14:00～15:

- 00) 再開することとした。結果、火曜日午後の活動プログラムに課題があったが改善された。
- ・《職員育成》職員が一般型にも認知症にも対応できるようにマルチジョブを更に進めた。結果としてケアの質の向上と均一化が進んだ。職員間での対話を大事にし、こまめに対話することを推奨し、円滑なコミュニケーションのもと組織マネジメント力が向上するよう図った。
 - ・《リハビリ》口腔機能向上加算を取得しているのは認知症デイのみだが、一般デイ・予防デイでも嚥下体操や食後の口腔ケアへ熱心に取り組んでおり、食欲増進や誤嚥を予防し健康の維持につなげている。
 - ・《PC環境の整備》すでにパソコンは社内LANで繋がっており、データ共有はできていたが、インターネット環境に繋がっていたのはわずか1台のPCのみであった。同じヨハネ会ながら本町センターは本部のある桜町から飛び地にあるため、コミュニケーションを円滑化するにはインフラ整備が不可欠と考えられ、ネット環境に繋ぐことに着手した。その結果、メールでの日常的な連絡調整・連携が可能となり、組織運営管理力が向上した。

【介護保険外のご利用者支援活動】

- ・法人の精神に従った支援を進めた。下記事例はその一部。

事例1) 高齢者夫婦世帯。77歳女性。要介護3。認知機能が低下しており、6月中旬に自宅を出てから行方知れずとなった。夫よりセンターに問い合わせあり、職員が捜索するも発見できず。家族へ警察への届出を提案するも拒否される。その後も捜索を継続し6時間後に市内で発見。保護しバイタルチェックを行い自宅に送り届ける。

事例2) 同上事例。来所時より体調不良で昼食摂取後熱発。ご家族、ケアマネジャーに連絡するも受診同行対応できないとの回答。そこで、ご家族に代わりセンターで受診同行する。結果、インフルエンザ陽性との診断。他ご利用者と隔離対応を行い、ご家族・ケアマネジャーへの申し送りをする。

事例3) 独居世帯。80歳女性。要介護5。動ける重度の認知症の方。6月中旬に自宅に居ないと娘より朝の8:15に連絡あり。家族とセンターで捜索活動を行う。8:50頃に武蔵小金井駅バス停に立っているところを保護し、センターにお連れする。

事例4) 同上事例。自宅で転倒するエピソードが増え、トイレに移動できなくなってしまったのでオムツをさせたいがどうしたら良いかと終業後センターに娘より電話あり。センターのオムツを持参し緊急訪問しオムツ指導を行い、翌日ケアマネジャーに連絡するなどの対応を行う。

事例5) 高齢者夫婦+娘世帯。77歳男性。要介護1。妻が認知症、娘も知的障害があるなどすることからご本人を通所介護につなげようと図った。しかし、サービス拒否があり通常のサービス提供時間でのご利用は困難なため、別便で送迎するなど個別対応で継続的に支援した。

【施設整備状況】

- ・ H23.8.26 空調室外機（1.2F 系統室外機）油量補充 約 3 万 4 千円
- ・ H23.8.30 3 階ダイルーム 膨張弁モーター マグネットコイル交換 約 3 万円
- ・ H23.10.11 グリストラップ清掃 約 7 万円
- ・ H23.12.7 増圧ポンプ修繕整備
(No.1 フローセンサー交換 No.2 ポンプメカニカルシール交換) 12 万 6 千円
- ・ H24.2.15 自動ドア交換 66 万円 ※市が予算化し、市の負担で実施した。
- ・ H24.3.7 蛍光灯照明器具交換他（蛍光灯安定器交換）18 万 9 千円

【リスクマネジメント】

① 小金井市への事故報告書作成・届出件数：2 件

- ・ H23.6.13 ご利用者ノロウイルス感染事故
→市役所、ご利用者・ご家族、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所宛てに報告。その後、二次感染者出ず 6.22 収束宣言する。
- ・ H23.9.8 デイ送迎事故報告
→帰宅送迎中、子どもが飛び出してきたため急ブレーキをしたところ背もたれ部分に頭部を打撲。同日、受診・検査し異常なし。その後のモニタリングでも異常なし。

② 届出外の事故

- ・ H24.1.24 関東地方に大雪が降った日。デイお迎え時、信号停車し発進しかけたところ前方で自転車が転倒。ブレーキをしたところ後方よりトラックが追突。職員 2 名が頸椎捻挫を受傷。→その後、2 か月以上に及ぶ療養生活。

③ 苦情受付記録簿作成

- ・ 一般型通所介護
12 件（お迎えもれ 4、休み連絡もれ 4、思い込み 2、鍵のかけ忘れ 1、送迎地点間違い 1）
- ・ 認知症対応型通所介護
6 件（送迎漏れ 3 件、送迎連絡漏れ 2 件、請求間違い 1 件）

④ ヒヤリハット事例（事故には至っていない気づき：毎月職員会議で報告検討行う）

- ・ 一般型通所介護
転倒 18 件・移動 10 件・異食誤嚥 1 件・送迎 0 件・入浴 2 件・徘徊 1 件・誤配薬 2 件・口腔ケア 4 件・排泄 1 件・食事 2 件・請求事務 1 件・
その他 7 件（早合点 1、車いす衝突 1、義歯破損 1、二重請求 1、ご利用者の混乱 1、ドア開放のまま発車 1、ブロック塀に接触 1、）
- ・ 認知症対応型通所介護
転倒 4 件・転落 2 件・異食誤嚥 1 件
送迎 2 件（ワイヤーロック忘れ 1、ハッチ開放したままの発進 1）・入浴 1 件・徘徊 0 件・誤配薬 0 件・その他 7 件（送迎時の部屋の間違い 1、歯ブラシ間違い 2、テーブルストッパー外れ 1、衣類間違い 1、口腔ケアチェック不足 1、指挟み 1）

【教育研修】

2011年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修計画・研修実施一覧表

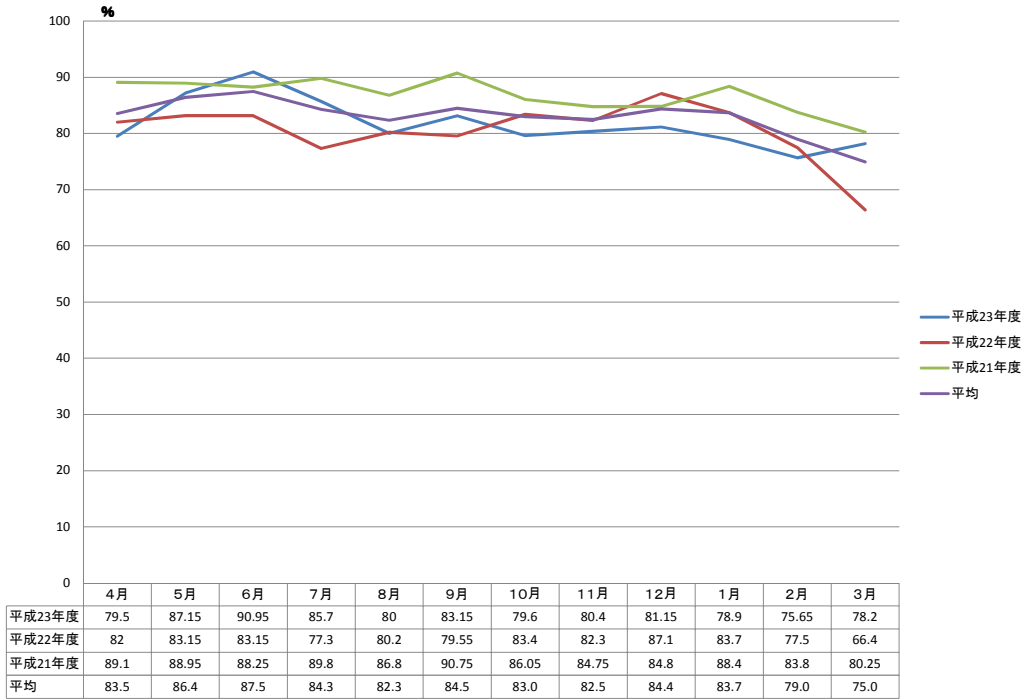
2012/3/31現在

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2011/5/2～30	新入職員研修	桜町・本町デイサービスセンターの実務研修	法人内	山極 愛郎
2011/5/14	認知症	バリデーションセミナー2011	江東区	嶋田 八千代
2011/5/17	消防・防災	新入職員合同防災訓練	小金井市	大谷 夏海
2011/5/25	認知症・看護	認知症と薬のつきあい方	杉並区	井上 優子
2011/5/25	介護	デイサービスの存在意義をあらためて考える	新宿区	山極 愛郎
2011/6/9	人材育成	法人内人材育成研修	ヨハネホーム	藤井・山極・嶋田・大谷
2011/6/13	認知症	バリデーションへの誘い	荒川区	久保 あゆみ
2011/6/20	消防・防災	東日本大震災を通してわかった福祉事業所の震災時における課題と対応方法の共有	新宿区	山極 愛郎
2011/6/22	認知症	東京都認知症介護実践者研修(～7/19)	東京都	山極 愛郎
2011/6/22～23	認知症	東京都認知症介護実践者研修(第2回公開講座)	文京区	大谷 夏海
2011/6/24	介護保険制度	介護報酬請求事務に関する研修会(基礎編)	新宿区	大谷 夏海
2011/7/6	介護	デイサービスの基本を学ぼう	飯田橋	大谷 夏海
2011/7/7	ホスピス	聖ヨハネのホスピスについて	法人内	山極 愛郎
2011/7/11	リスクマネジメント	介護サービス事業者のリスクマネジメント	新宿区	嶋田 八千代
2011/7/27-28	消防・防災	防火・防災管理講習	立川市	山極 愛郎
2011/8/1～5	認知症	東京都認知症管理者研修	東京都	山極 愛郎
2011/9/12	消防・防災	全施設向けBCP策定研修会	新宿区	藤井 律治
2011/9/12	消防・防災	全施設向けBCP策定研修会	新宿区	山極 愛郎
2011/9/14	雇用管理	雇用管理者責任者講習会	三田	山極 愛郎
2011/9/30	看護	疼痛コントロールに関する勉強会(麻薬テープ)	聖ヨハネホスピス研究所	井上 優子
2011/10/12	認知症	高齢部門研修「レビー小体認知症について」	ヨハネホーム	山極 愛郎
2011/10/24	リスクマネジメント	事故・苦情対応のリスクマネジメント	文京区	大谷 夏海
2011/11/16	権利擁護	東京都介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修	立川市	山極 愛郎
2011/12/16	口腔ケア	高齢者の口腔ケア講習会	多摩府中保健所	久保 あゆみ
2011/12/21	感染症	社会福祉施設におけるノロウイルス対応	施設内研修	当日出勤職員
2012/1/27	認知症	認知症ケアに関する研修会(基礎編)	立川市	高野 幸子
2012/1/31	地域ネットワーク	高齢者地域自立支援ネットワーク事業	小金井市	井戸 恵
2012/2/6	栄養	栄養マネジメント研修会	新宿区	井戸 恵
2012/2/6	労働災害	社会福祉施設等災害防止講習会	立川市	山極 愛郎
2012/3/20	理念教育	日本女子修道会総長管区長会 社会福祉勉強会	四谷	山極 愛郎
2012/3/21	介護保険制度	介護報酬改定にかかる勉強会	東社協	山極 愛郎 吉田 貴夫

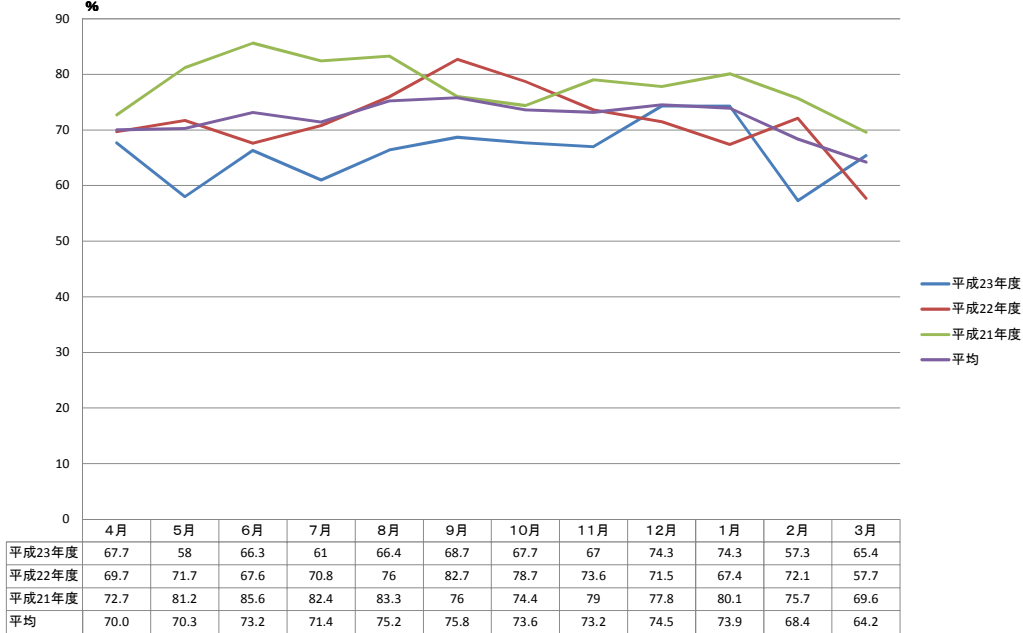
【利用実績集計表・利用率の推移・利用料収入の推移など】

事業別		2011(H23)年度	利用実績集計表											2011年4月～2012年3月		本町高齢者在宅サービスセンター		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計			
介護保険	通所介護・一般	日数	25	23	26	25	27	24	25	24	24	23	24	26	296			
		25名/日 定員	625	575	650	625	675	600	625	600	600	575	600	650	7,400			
	介護給付 (20人想定)	登録数	62	66	66	64	61	61	61	62	64	64	62	61	-			
		実利用者数	62	65	66	64	61	61	61	62	64	64	62	61	-			
		延利用者数	436	434	506	457	476	442	468	448	427	410	430	480	5,414			
		人数/日当	17.4	18.9	19.5	18.3	17.6	18.4	18.7	18.7	17.8	17.8	17.9	18.5	18.3			
		利用率	87.2%	94.3%	97.3%	91.4%	88.1%	92.1%	93.6%	93.3%	89.0%	89.1%	89.6%	92.3%	91.5%			
	予防給付 (5名想定)	登録数	23	25	24	22	23	19	17	18	18	18	16	17	-			
		実利用者数	22	25	24	23	23	19	17	18	18	18	16	17	-			
		延利用者数	88	92	110	100	97	89	82	81	88	79	71	76	1,053			
		人数/日当	3.5	4.0	4.2	4.0	3.6	3.7	3.3	3.4	3.7	3.4	3.0	3.3	3.6			
		利用率	70.4%	80.0%	84.6%	80.0%	71.9%	74.2%	65.6%	67.5%	73.3%	68.7%	59.2%	66.1%	71.1%			
	小計	延利用者数	524	526	616	557	573	531	550	529	515	489	501	556	6,467			
		利用率	83.8%	91.5%	94.8%	89.1%	84.9%	88.5%	88.0%	88.2%	85.8%	85.0%	83.5%	85.5%	87.4%			
事業	通所介護・認知症	日数	25	23	26	25	27	25	25	24	24	23	24	26	297			
		12名/日 定員	300	276	312	300	324	300	300	288	288	276	288	312	3,564			
		登録数	23	21	21	22	22	22	23	24	24	22	22	24	-			
		実利用者数	23	21	21	22	22	22	23	24	24	22	22	24	-			
		延利用者数	203	160	207	183	215	206	203	193	214	205	165	204	2,358			
		人数/日当	8.1	7.0	8.0	7.3	8.0	8.2	8.1	8.0	8.9	8.9	6.9	7.8	7.9			
		利用率	67.7%	58.0%	66.3%	61.0%	66.4%	68.7%	67.7%	67.0%	74.3%	74.3%	57.3%	65.4%	66.2%			
	通所介護合計	実利用者数	107	111	111	109	106	102	101	104	106	104	100	102				
		延利用者数	727	686	823	740	788	737	753	722	729	694	666	760	8,825			
		※通所介護全体利用率	78.6%	80.6%	85.6%	80.0%	78.9%	79.7%	81.4%	81.3%	82.1%	81.6%	75.0%	79.0%	80.6%			
	地域支援事業	かいてき健康クラブ	日数		3	5	4	5	3	4	4	3	3	5	4	43		
			12人/日 定員	0	36	60	48	60	36	48	40	30	30	50	40	478		
			登録数		9	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	-		
			実利用者数		9	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	-		
延利用者数				27	50	39	43	27	32	45	28	27	37	38	393			
利用率			###	75.0%	83.3%	81.3%	71.7%	75.0%	66.7%	112.5%	93.3%	90.0%	74.0%	95.0%	82.2%			
家族介護者教室		回数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1			
		利用者数	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	17			
認知症高齢者家族交流		回数	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11			
		利用者数	0	3	2	2	3	15	3	7	3	2	7	3	50			
食の自立支援事業		食の自立支援事業	日数	25	23	26	25	27	24	25	24	23	23	24	26	295		
			73人/日 定員	1825	1679	1898	1825	1971	1752	1825	1752	1679	1679	1752	1898	21,535		
		①②③⑤	延食数	1933	1804	2079	2013	2213	2007	2085	1994	1878	1848	1908	2025	23,787		
			利用率	105.9%	107.4%	109.5%	110.3%	112.3%	114.6%	114.2%	113.8%	111.9%	110.1%	108.9%	106.7%	110.5%		
	①配食サービス	登録数	203	201	206	208	207	203	205	204	200	199	193	185	-			
		実利用者数	189	184	194	196	195	192	200	195	189	191	182	183	-			
		延食数	1924	1802	2076	2008	2203	1992	2071	1985	1867	1837	1901	2020	23,686			
		食/日当	77.0	78.3	79.8	80.3	81.6	83.0	82.8	82.7	81.2	79.9	79.2	77.7	80.3			
		利用率	105.4%	107.3%	109.4%	110.0%	111.8%	113.7%	113.5%	113.3%	111.2%	109.4%	108.5%	106.4%	110.0%			
	②緊急配食	実利用者数	1	0	0	1	2	2	1	0	1	1	2	0	11			
		延食数	6	0	0	2	10	10	6	0	6	5	7	0	52			
	③会食サービス	回数	0	1	1	1	0	1	1	1	2	1	0	2	11			
		延利用者数	3	2	3	3	0	3	2	2	3	3	0	5	29			
	④いっぴくカフェ (閉じこもり防止)	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12			
延利用者数		7	3	6	6	6	7	5	5	6	5	4	5	65				
⑤栄養調理指導 (自立推進クラブ)	回数	0	0	0	0	0	1	3	5	2	1	0	0	12				
	延利用者数	0	0	0	0	0	2	6	7	2	3	0	0	20				
⑥栄養マネジメント (自立推進クラブ)	回数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1				
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5				
⑦調査・ケアプラン	新規・継続	11	10	15	14	9	18	8	8	8	8	10	10	129				
独自事業	高齢者見守りサービス	実利用者数	1	2	1	1	0	0	3	1	0	2	0	1	12			
	パーチャタイム(自費)	延利用者数	2	2	1	1	0	0	3	2	0	4	0	1	16			
	地域社会支援①	回数	10	9	8	9	3	10	10	8	4	7	9	11	98			
	元気です本町2丁目会等	延人数	52	68	66	42	10	53	55	64	17	31	57	68	583			
	地域社会支援②	回数	4	4	4	3	4	4	4	5	5	4	4	3	48			
	いきいき健康クラブ	延人数	28	28	26	19	25	21	23	34	37	23	24	18	306			
	日常生活支援 (各種相談対応等)	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	ボランティア活動	実人数	26	26	27	27	28	31	32	32	31	32	32	31	-			
		延人数	77	83	92	74	77	87	82	83	74	87	71	84	971			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		

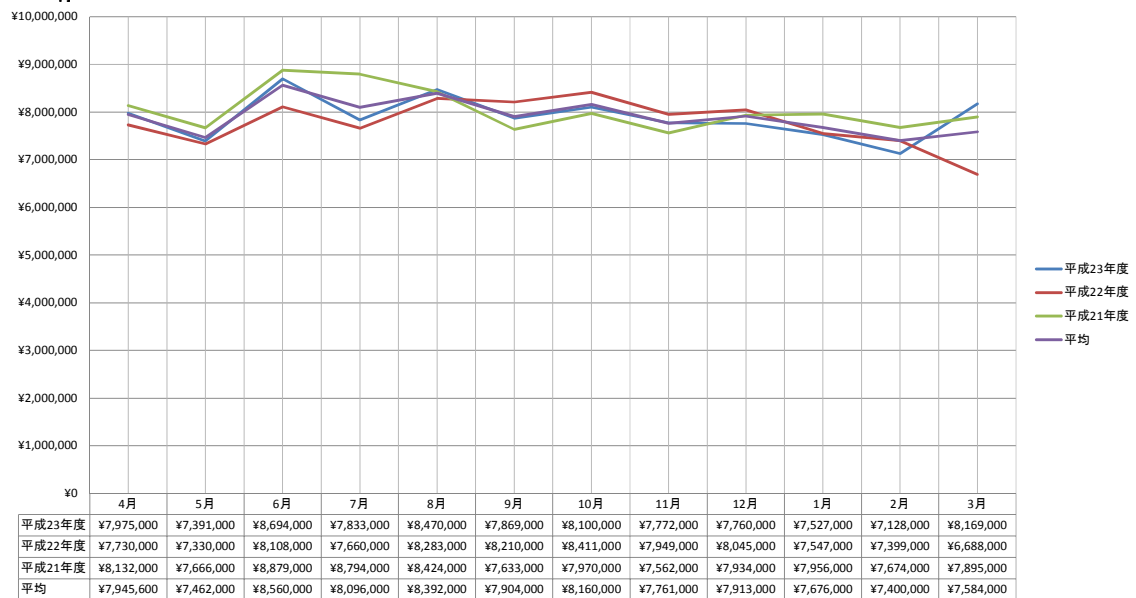
予防デイ・一般デイ月次利用率推移表



認知症対応型デイ月次利用率推移表



利用料推移(H21~23)



3. 医療部門

【 総 括 】

- ・平成23年度は年度途中での院長交替という運営体制の変更があった。
- ・平成24年度病院機能評価受審準備に合わせ病院組織・体制の見直し、必要な委員会の新設・見直し、種々のマニュアル関係の整備、作業実施手順や方法の見直し、業務整理、環境整備など整備を進めることができた。
- ・経営状況は上向きになりつつあり、平成22年度に続き計画を若干下回るものの1.4億円の剰余を計上することができた。ただし、病床利用率が年々下がってきていること、人件費率が高止まりにあることを深刻に受け止めている。
- ・平成24年度には2年に1度の診療報酬の改定が行われた。今回の改定は来るべき超高齢社会を見据えた改革の第1歩という位置付けにある。これを機に当院が果たしていく役割とそのための診療体制の構築について、広い視野からの検討をしていく予定である。

I 総合病院 桜町病院

(生計困難者の為に無料・低額な料金で診療を行う事業)

【平成23年度活動状況報告】

種別	許可病床数	患者数/日	延患者数	利用率 (H23度)	利用率 (H22度)	利用率 (H20度)
入院	199床	166.8名	60,958名	83.7%	87.8	904%
外来	—	399.6名	118,269名	—	—	—

平均在院日数 25.2日 17.7日(療養病床除く) 療養病床 557.8日

新入院患者数 2,424人(前年度 2,505人) 退院患者数 2,422人(前年度 2,496人)

時間外患者数 603人 紹介率 10.7% 逆紹介率 9.2%

手術室手術件数 862件(前年度 778件)(全麻件数 613件)

分娩件数 391件(前年度 422件)

人間ドック件数 入院 14件(前年度 20件) 外来 778件(前年度 736件)

【無料低額診療】

1. 受診人数

新規延人数	新規実人数	継続受診人数
46	15	34

2. 診療科別件数

内科	精神科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科
13	13	0	15	17	0	2

3. 依頼者別件数

福祉事務所	社会福祉 協議会	難民支援	ホームレス 支援団体	他病院	その他
12	0	34	0	0	0

【職員】平成23年度年度始め・年度末職員数及び退任・就任状況

区分	平成23年4月1日 の職員数		年間退任・就任				平成24年3月31日 の職員数	
	正職員	職員 非常勤	正職員		非常勤職員		正職員	職員 非常勤
			就任	退任	就任	退任		
院長	1	0	1	1	0	0	1	0
副院長	1	0	2	1	0	0	2	0
医師	24	41	2	5	9	12	24	43
看護師	77	41	5	14	23	8	71	57
准看護師	10	2	2	1	2	1	12	2
看護助手	19	7	2	2	7	4	19	12
薬剤師	4	2	1	0	0	1	5	1
放射線技師	7	0	1	0	0	0	7	0

臨床検査技師	7	2	0	0	0	0	7	3
PT・OT・ST	12	4	0	0	1	0	12	4
栄養士	6	0	0	0	0	0	6	0
事務	21	9	1	3	3	0	19	12
施設	2	1	0	0	0	0	2	1
その他	13	24	0	0	7	6	13	26
合計	202	133	14	25	52	32	197	161

注：就任・退任数には4月1日就任数及び3月31日退任数を含む。

【運営状況】

平成23年度は院長交替という運営体制に大きな変更があった。平成24年1月1日付けの人事で、平成19年8月から院長を務め病院の立て直しに大きな貢献をされた柴崎院長が名誉院長に退き、後任として小林副院長が新院長に就任した。

平成23年度は運営目標として①医療の質の向上を図り患者満足度の高い医療を提供する②経営の健全化に向け全職員一丸となった取組みを進める③予算執行管理を徹底する④病院組織体制を整備する⑤病院機能評価受審準備の万全を期す⑥職員の資質向上のために研修環境の充実を図るの6つを掲げ、病院が自立できる年とすることを目指して運営してきた。

このうち、平成24年度に更新受審を控えている病院機能評価の受審準備は、職員の協力の下に着々と作業が進んでいる。これまでに病院組織・体制の見直し、必要な委員会の新設・見直し、種々のマニュアル関係の整備、作業実施手順や方法の見直し、業務整理、環境整備などの整備を進めることができた。ただ受審に向けての全職員一体となった取り組み姿勢に欠けるきらいがあったので、残された期間、受審の意義を職員と共有しながら最終の準備を進めたい。

今年度は、年間を通じて入院患者の確保ができなかったが、整形外科診療の拡充や医療資源の有効活用等によって診療単価が大きくアップしたことにより、診療収入が僅かであるが増加した。また、「収入見合いの支出」という考え方を浸透しつつ計画的な支出を徹底したこと、常勤看護師の減少に伴う給与費の減、業務委託費見直しによる委託費の減、材料費の減などの支出の削減により経営状況は上向きになりつつある。結果、収入の減を上回る支出の減となったために、平成22年度に続き計画を若干下回るものの1.4億円の剰余を計上することができた。依然として人件費（人件費率63%）などの固定費の割合が大きく、脆弱な側面を抱えつつも着実に経営改善が図られていると考えている。

しかしながら、多摩医療センターや公立昭和病院の施設・設備の拡充が終了したことなど、当院を取り巻く経営環境が変化した影響があることを考え合わせても、経営の重要な要素である入院患者の確保ができないことは、健全経営達成に向けた取組みに極めて大きな問題であると言わざるを得ず、病床利用率が年々下がってきていることを深刻に受け止めている。平成23年度は病床利用率を維持・向上させるという課題を残した。

なお、医療を支える常勤看護師の確保は困難を極めているが、新年度に向けある程度の数を採用することができた。引き続き適切な看護の実施のために、また現行の看護体制を維持する上からも常勤看護師を確保する努力を続けていきたい。

平成24年度には2年毎に行われる診療報酬改定が実施された。今回の改定は来るべき超高齢社会を見据えた改革の第1歩という位置付けにあり、厚労省において病床の機能分化についても検討が始められているところである。この動きを注視しつつ当院が果たしていく役割とそのための診療体制の構築について、広い視野からの検討をしていく予定である。

【患者動向】.

平成23年度診療科別患者状況

区分	入院		外来	
	一日平均患者数(人)	一日平均診療単価(円)	一日平均患者数(人)	一日平均診療単価(円)
内科	45.6	24,123	132.9	7,358
療養	40.6	17,817		
外科	12.1	29,050	16.3	6,015
整形外科	29.4	37,392	57.2	5,010
小児科	2.9	28,019	64.9	4,637
精神神経科			41.8	4,934
眼科	0.8	77,241	33.4	5,787
産婦人科	16.9	77,241	50.9	4,790
ホスピス	14.6	39,195	2.1	4,129
ホスピス内科	3.7	23,972		
訪問看護			0.1	13,788
ドック・健診	(0.1)			
計	166.6	32,332	399.6	5,797

【施設整備状況】

(機器)

オーダリングシステムサーバ3台

全自動散薬分包機1台

インキュベータ1台

超音波診断装置1台

(改築・修繕)

用度倉庫リニューアル

地域医療連携室リニューアル

【教育研修】

研修名	年月日	開催場所	出席者数
救命処置訓練（実技）	23. 4. 1	桜町病院別館講義室	8名
医療事故の初期対応	23. 6. 6	桜町病院別館講義室	47名
生活習慣病予防	23. 8. 5	桜町病院別館講義室	39名
血液製剤の安全対策	23. 11. 14	桜町病院別館講義室	52名
病院における個人情報管理	23. 11. 18	桜町病院別館講義室	30名
日常の中で起こりやすい事故とその対策	23. 12. 2	桜町病院別館講義室	50名
禁煙の勧め	23. 12. 14	桜町病院別館講義室	22名
医療倫理と患者の権利	23. 2. 13	桜町病院別館講義室	38名
医薬品の安全管理	23. 2. 9	桜町病院別館講義室	13名
人事考課	23. 3. 7	桜町病院別館講義室	34名
院内研究発表会 （アクシデントレポート 分析報告含む）	23. 3. 10	桜町病院別館講義室	46名

<保育所>

保育園児数等 園児延数 3, 159人
職員延数 1, 824人

24時間保育 延回数 115回
延保育児数 233人

行事等 定期健康診断 5月、11月
遠足 9月17日 47人参加（園児24人）
クリスマス会 12月17日 36人出席（園児18人）
お別れ会 3月17日 17人出席（園児10人）

<児童ショートステイ>

利用者数 短期入所利用数 人数 319人 利用日数 872日
日中一時支援利用数 人数 336人 利用日数 747日

利用者住所地 小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市、その他

Ⅱ 小金井訪問看護ステーション（訪問看護）

【平成23年度利用状況報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医保利用者	16	15	15	15	15	15	14	13	14	16	15	15	178
訪問件数	66	64	67	71	86	71	69	61	80	71	72	64	842
介保利用者	49	50	50	50	45	47	48	51	50	51	51	53	595
訪問件数	187	175	200	189	194	189	186	195	188	179	204	209	2295
総訪問件数	253	239	267	260	280	260	255	256	268	250	276	273	3132

【職 員】

正職員 3名

非常勤職員 1名（6月採用）

【施設運営状況】

平成23年度は非常勤職員の採用ができたが、年間に於いて新規利用者44名（昨年より3名増）に対し、終了者37名（昨年より2名減）と昨年と変わらない状況となり、職員増にあわせて利用者確保が出来なかった。年間の終了者も多い現状においては、これまで以上に利用者の獲得が必須であった。新規依頼先がケアマネージャーからがほとんどであり、当ステーションに依頼の多かったケアマネが相次いで辞めてしまったことも影響していた。訪問件数で平成22年度月平均274件であったが、本年261件と減少してしまい、収支では赤字の結果となってしまった。

介護保険においては最低利用料の訪問看護1（30分未満）の利用件数は昨年同様、介護保険全体の44%となっており、訪問看護2（60分未満）への移行など引き続き検討することが必要であった。しかしながらH24年度の診療報酬改正では訪問看護1の単位が引き上げとなっており、あらたに退院時共同加算、初回加算が設定されるため増収が期待される点もある。

法人本部のご尽力により企画室会議、運営会議へ参加し、ステーションの現状を報告する機会を頂いた。その中で、他部門に対するピアール不足を認識し、また様々な方々からのアドバイスを受けることで、今後の方向性を見直す機会となった。これまでも施設方針の中で「地域の保健・医療・福祉サービスとの連携を図り総合的なサービスの提供に努める。」と挙げていたが、より具体化した事業展開が必要と考えられた。桜町病院と連携会議を行い、「入院中より在宅生活に向けて訪問看護師が関わることで、患者・家族が在宅での生活を具体的にイメージでき、不安になっていることを話し合うことで、安心して在宅生活へ移行することを目指す。」ことを目的に、今後の連携方法の検討を行った。今後退院前カンファレンスなどを行い、これまでのケアマネから依頼を待つのではなく、病院入院中から積極的に支援していくことで、サービスの質を高める、利用者の獲得に繋がると考えている。

【利用者支援状況】

1. 利用者数（年間登録者）

107名（男 43名 女 64名）

2. 利用者の住所

小金井市

3. 主治医

桜町病院 32名（前年度より6名増）

その他の医療機関病院 30名（前年度より3名減）

市内の開業医院 34名（前年度同数）

他市の開業医院 11名（前年度2名増）

4. 新規利用者紹介もと

44名（平成23年度）

包括	ケアマネ	医療機関	市役所	個人	グループホーム
3名	32名	6名	1名	1名	1名

【施設整備状況】

- ・ レーザープリンター 1台
- ・ インターネット整備

【教育研修】

研修名	年月日	場所	出席者
新任職員研修	23年6月～7月	ステーション、 病院、センター	福川
緩和ケア	23年11月9日	別館3階講堂	杉山
報酬改定研修	24年3月17日	ベルサール飯田 橋	當山
報酬改定研修	24年3月28日	中野サンプラザ	小暮

4. 公益事業部門

I 聖ヨハネホスピスケア研究所

【平成23年度活動状況報告】

1) ホスピスセミナー

医療関係者以外に一般市民、看護学生など対象に実施。

14回実施。参加者412名

2) 看護師研修

a) ホスピス緩和ケアナース養成研修6週間コース

(笹川記念保健協力財団助成事業)

基本的な講義を日本看護協会が3週間行い、残りの3週間の臨床実習を受託。

年間参加者14名

b) がん専門看護師の臨床実習の受け入れ

平成23年度はなし。

c) 個人研修の受け入れ

年間 6名 各1週間ずつ

3) 医師研修

「ホスピス緩和ケアドクター養成研修」 (笹川記念保健協力財団助成事業)

1年間を通し、ホスピス緩和ケアの理念、および知識・技術を学ぶ。

医師 1名参加

4) その他の個人研修

医師 1週間 1名

看護学生 1週間 5名

5) 音楽療法

入院患者1人1人のニーズに応える個別の音楽療法「音楽宅配便」を、基本的に週1回実施した。

6) 講演会

ケアタウン小平と共催にて実施。

テーマ「日野原重明 いのちを語る」 講師：日野原重明先生

(12月1日 武蔵野市民文化会館 大ホール)

参加者 1219名

7) 学会発表・研究

平成23年度はなし。

8) ホスピスボランティア講座

聖ヨハネホスピスと共催で5月～6月の2ヶ月間に計7回の講習を実施。

参加者 42名

9) 「アロマセラピー」の取り組み

看護研究員と委託研究員のアロマセラピスト3名と共に、患者へアロマセラピーを毎週

1 回実践。

年間延べ 264 ケースに実施した。

10) 研修会の実施

主に在宅医療・療養に従事する職業を対象に、以下の4回の研修会を実施した。

a) 「よくわかる！スピリチュアルペインとそのケア」 (7月 山崎章郎所長)

参加者 41名

b) 「終末期の患者と家族の気持ちに寄り添うために」 (9月 蛭田みどり先生)

参加者 55名

c) 「心にふれる人とのかかわり」 (11月 沼野尚美先生)

参加者 63名

d) 「事例に学ぶ疼痛コントロール」

(聖ヨハネホスピスと共催 1月 大井先生)

参加者 21名

【職員】

変更なし

【施設運営状況】

特になし

【施設整備状況】

特になし

三 理事会並びに評議員会

1 理事会

第 258 回 平成 23 年 5 月 27 日（金） 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 理事長専決事項の経過報告について
- 2 新役員選任の報告について
- (議案) 1 平成 22 年度事業報告について
- 2 平成 22 年度決算報告について
- 3 平成 22 年度決算監事監査報告について
- 4 評議員の任期満了に伴う改選について

第 259 回 平成 23 年 6 月 1 日（水） 理事長室

- (議案) 1 理事長の互選について
- 2 理事長職務代理者の選任について

第 260 回 平成 23 年 9 月 27 日（火） 理事長室

- (報告) 1 富士聖ヨハネ学園の改築検討について
- (議案) 1 諸規程の改訂について
 - (1) 高齢部門 給与規程
 - (2) 本町高齢者在宅サービスセンター 運営規程
 - (3) 山梨地区グループホーム 運営規程
 - (4) ホームページ運用規程
- 2 施設長の任命について
- 3 中長期計画（5年後の姿）について

第 261 回 平成 23 年 11 月 30 日（水） 桜町病院別館 3 階講義室

- (報告) 1 理事長専決事項の経過報告について
- 2 桜町聖ヨハネホームの事故報告について
- 3 平成 23 年度上半期実績報告について
- (議案) 1 平成 23 年度補正予算について
- 2 施設長等の人事について
- 3 諸規程の改訂について
 - (1) 障害者地域生活支援センター 就業規則
 - (2) // 有期雇用契約職員就業規則
 - (3) // 旅費規程
 - (4) 小金井聖ヨハネワークセンター 運営規程
 - (5) 就労移行支援 重要事項説明書、契約書
 - (6) 就労継続支援（B型） 重要事項説明書、契約書
- 4 エリザベト寮の建て替えについて
- 5 富士聖ヨハネ学園の改築について
- 6 山梨県民向け地域支援事業の展開について

第 262 回 平成 24 年 3 月 12 日 (月) 桜町病院別館 3 階講義室

(報告) 1 エリザベト寮の改築について

2 役員の人事について

(議案) 1 平成 24 年度事業計画について

2 平成 24 年度予算について

3 平成 23 年度補正予算について

4 施設長任命及び施設の人事について

5 諸規程の改訂について

(1) 富士聖ヨハネ学園 就業規則

〃 非常勤職員就業規則

〃 職員給与規程

〃 嘱託職員給与規程

〃 非常勤職員給与規程

第 263 回 平成 24 年 3 月 22 日 (木) 書面評決

(議案) 1 諸規程の改訂について

(1) 桜町病院 組織規程

2 施設の人事について

理事及び監事一覧 (任期：平成 25 年 5 月 31 日まで)

理事長 渡邊元子

理事 百瀬雄次 柏本洋子 柴崎啓一 池田順子 横山文彦

濱本隆三 石山裕明 竹川和宏

監事 村松光春 駒村 裕 吉岡伸一

2 評議員会

第 69 回 平成 23 年 5 月 27 日（金） 桜町病院別館 3 階講義室

（報告） 1 理事長専決事項の経過報告について

（議案） 1 平成 22 年度事業報告について

2 平成 22 年度決算報告について

3 平成 22 年度決算監事監査報告について

4 役員の任期満了に伴う改選について

第 70 回 平成 23 年 11 月 30 日（水） 桜町病院別館 3 階講義室

（報告） 1 理事長専決事項の経過報告について

2 桜町聖ヨハネホームの事故報告について

3 平成 23 年度上半期実績報告について

（議案） 1 平成 23 年度補正予算について

2 施設長等の人事について

3 諸規程の改訂について

(1) 障害者地域生活支援センター 就業規則

(2) // 有期雇用契約職員就業規則

(3) // 旅費規程

(4) 小金井聖ヨハネワークセンター 運営規程

(5) 就労移行支援 重要事項説明書、契約書

(6) 就労継続支援（B型） 重要事項説明書、契約書

4 エリザベト寮の建て替えについて

第 71 回 平成 24 年 3 月 12 日（月） 桜町病院別館 3 階講義室

（議案） 1 平成 24 年度事業計画について

2 平成 24 年度予算について

3 平成 23 年度補正予算について

4 役員の人事について

5 諸規程の改訂について

(1) 富士聖ヨハネ学園 就業規則

// 非常勤職員就業規則

評議員一覧（任期：平成 25 年 5 月 31 日まで）

更田義彦 浜上光明 小浜 進 宮本 誠

篠原 熙 杉立真理子 保坂正克 鴨下和恵

幸田和生 角張洋和 富田周次 藤井律治

渡邊元子 百瀬雄次 柏本洋子 柴崎啓一

池田順子 横山文彦 濱本隆三

四 経営会議

平成 23 年 4 月 19 日（火）開催 理事長室

- （報告）1 月次報告（1～2 月度報告）について
- （議案）1 エネルギー使用量作成について
- 2 桜町 1 丁目の土地活用について
- 3 企画室の活動について
- 4 辞令交付の手順について

平成 23 年 5 月 17 日（火）開催 理事長室

- （報告）1 月次報告（3 月度報告）について
- 2 企画室の活動報告について
- （議案）1 桜町 1 丁目の土地活用について
- 2 5 年後の法人・各施設の姿について
－中期行動計画を踏まえたあるべき姿

平成 23 年 6 月 14 日（火）開催 理事長室

- （報告）1 月次報告（4 月度報告）について
- 2 企画室の活動報告について
- 3 法人ホームページの業者決定等について
- 4 障害者雇用の納付金について
- （議案）1 院内保育所について
- 2 監事監査の指摘事項改善について

平成 23 年 8 月 9 日（火）開催 理事長室

- （報告）1 月次報告（5～6 月度報告）について
- 2 企画室の活動報告について
- （議案）1 5 年後の姿について
- 2 エリザベト寮の建て替えについて
- 3 監事監査の指摘事項について

平成 23 年 9 月 13 日（火）開催 理事長室

- （報告）1 月次報告（7 月度報告）について
- 2 企画室の活動報告について
- 3 医療福祉セミナーについて
- （議案）1 新会計基準への移行に関する進め方について
- 2 ホームページ運用規程（案）について
- 3 5 年後の姿について（理事会提出整理）
- 4 エリザベト寮の建て替えについて（理事会提出整理）

平成 23 年 10 月 25 日（火）開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告（8 月度報告）について
2 企画室の活動報告について
3 介護事業経営実態調査について
4 定款細則の変更について
5 新宿区障害者施設公募について
6 富士聖ヨハネ学園改築に関する都との協議について
7 上半期実績報告と補正予算について
- (議案) 1 エリザベト寮の建て替えについて
2 就業規則準則の制定について

平成 23 年 11 月 15 日（火）開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告（9 月度報告）について
2 企画室の活動報告について
- (議案) 1 上半期実績報告および収支中間報告について
2 補正予算について

平成 23 年 12 月 13 日（火）開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告（10 月度報告）について
2 企画室の活動報告について
- (議案) 1 平成 24 年度事業計画および予算書作成スケジュールについて
2 就業規則準則の制定および法人の人事管理体制の整備について
3 新会計基準への移行に関する「拠点区分」について
4 経営会議メンバーについて

平成 23 年 12 月 27 日（火）開催 理事長室

- (報告) 1 「就業規則準則プロジェクトチーム」メンバー選定について
- (議案) 1 エリザベト寮の改築について

平成 24 年 1 月 17 日（火）開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告（11 月度報告）について
2 企画室の活動報告について
- (議案) 1 新会計基準の「拠点区分」について

平成 24 年 2 月 21 日（火）開催 理事長室

- (報告) 1 月次報告（12 月度報告）について
2 企画室の活動報告について
3 新会計基準の「拠点区分」について
4 エリザベト寮の改築について
- (議案) 1 訪問看護の運営状況について

経営会議メンバー一覧

議長	渡邊元子（理事長）
法人本部	竹川和宏（事務局長）
医療部門	小林宗光（桜町病院院長） 瀬口秀孝（桜町病院副院長） 富田周次（桜町病院事務部長）
高齢福祉部門	相松幸子（高齢福祉部門顧問） 石山裕明（桜町聖ヨハネホーム園長） 藤井律治（桜町高齢者在宅サービスセンター長） 樋口昭彦（桜町高齢者在宅サービスセンター事務長） 山極愛郎（本町高齢者在宅サービスセンター長）
障害福祉部門	角張洋和（富士聖ヨハネ学園園長） 勝見 正（富士聖ヨハネ学園副園長） 濱本隆三（障害者地域生活支援センター長）